



Title	1984年、モンゴル社会のラフスケッチ：家族を中心に、講義ノートから
Author(s)	吉本、るり子
Citation	モンゴル研究. 2023, 32, p. 78-111
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/102403">https://doi.org/10.18910/102403</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 《雑 感》

# 1984年、モンゴル社会のラフスケッチ — 家族を中心に、講義ノートから —

吉本 るり子

## はじめに

1982年秋から1984年秋、社会主義時代のモンゴルに2年間留学した。当時のモンゴルはソ連をトップに頂く”社会主義”陣営にあって、対外的には、第2番目の”社会主義”国であると誇り、ソ連を”兄”とし、自らを”弟国”とするモンゴル人民共和国であった。

その5年後の1989年、ソ連ではペレストロイカがうたわれる中、モンゴルでは民主化の動きが高まり、1991年、共産党一党独裁を廃し、1992年、モンゴル国新憲法を施行、国名をモンゴル国に改名、今日に至る。

講義ノートは1921年の民族革命を経て、遊牧形態の牧畜の集団化など社会のあらゆる集団、場面でおきた変化について、1984年時点で聞いたもの、講義の記録である。話者は、当時モンゴル科学アカデミー哲学社会学研究所所長であったD.ダシプレブ *Д.Дашпүрэв* (Danzankhorloo DASHPUREV)<sup>1)</sup> 先生である。講義はモンゴルの現状を、社会学の調査・研究をもとに客観的に、さらに自身の見解、観察、体験も交えて話して下さったものだ。これは、その1984年の講義ノートをもとに、家族という一次的・伝統的集団で起きた変化に注目しつつ、1984年頃の家族の状況について描いてみたもの、今は存在しない、いわば消えた社会のラフスケッチである。

来年2024年、40年後のモンゴルを訪問したいと思っている。家族は、社会はどうなったのか、どうなっているのか？ 少しでも知り得たら、と思っている。

## 家族についての講義ノートから

### 家族を表わす2つの言葉、”ウルフ ゲル(家) *өрх гэр*”と”ゲル ブル(家族) *гэр бүл*”

家族に関わる2つの言葉、”ウルフ ゲル(家) *өрх гэр*”と”ゲル ブル(家族) *гэр бүл*”は、全く同じ意味で使われる場合と少し異なる意味で使われる場合がある。

30年代中頃にB.リンченは、『家族・私有財産・国家の起源』を翻訳する際にロシア語の”семья(家族)”を”ウルフ ゲル(家) *өрх гэр*”と訳した。その後、1960年代中頃のK.マルクスの著作の翻訳でB.リンченは、”семья(家族)”を”ウルフ ゲル(家) *өрх гэр*”ではなく、”ゲル ブル *гэр бүл*”と訳している。これ以降”семья(家族)”は”ゲル ブル *гэр бүл*”と訳されるようになった。その後”ウルフ ゲル(家) *өрх гэр*”という語句は、口話でのみ使われるか、あるいは一部の公文書で使用される用語となり、学術用語としては使われなくなった。

1) *Д.Дашпүрэв* 氏の著書には日本語に翻訳されているものもある。以下。

D・ダシブルブ (2013)『モンゴルの政治テロ支配と民衆抑圧の歴史：1920年～1990年』(松本康監訳) デザインエッグ社。

D・ダシブルブ (2016)『モンゴル哲学史概説』(松本康監訳) デザインエッグ社。

### ◇ウルフの長(家長) өрхийн тэргүүлэгч

公的な登録において、"ウルフの長(家長) өрхийн тэргүүлэгч"という用語が使われている。これは、the head off the family といった意味である。一方 "ゲルブル(家族)の長 гэр бүлийн тэргүүлэгч" とは言わない。公文書の用語解説では、この "ウルフの長(家長) өрхийн тэргүүлэгч" には男性を置くとしている。これは父系制の残滓である。

例えば、1960年代、夫が死亡し妻と子供5人の家族となった場合に、女性(妻)がウルフの長(家長)となることは非常に稀であった。5人の子供のうち、一番年長の男子が "ウルフの長(家長)" となった。

例えば、[話者は自分の家族で起きたこととして、次のように語っている。]

「6-7歳の時、父親が亡くなった。母親は、ホローの会議やバグの会議等、集会に当たって、まだ子供である長男の私の名前で登録し、長男である私を連れて集会に出席した。その後、私が少し大きくなるとまだ子供である私が、常にホローの会議に出席した。そして私は18歳で "ウルフの長(家長)" となった。」

男子がウルフの長(家長)となる伝統が存続していた。

これは革命以後とくに1950年代・60年代以降、社会の実情にそぐわなくなってきた。

1970年代、女性の社会参画が進むとともに、女性が家族の経済関係に主体的に関わるようになった。とくに公務員や知識人層の女性が、日常的に家計を切り盛りすることが一般的になってきた。これは都市部において顕著である。"ウルフの長(家長)" として女性が出てきた。例えば、10年前はアパートや夏の別荘の割り当て・支給などは、以前の理解での "ウルフの長(家長)"、すなわち男性を対象に行われていた。女性たちはこうしたことを批判し、現在は男女如何に関わらず、社会においてより重要な職務を遂行している者が "ウルフの長(家長)" であるべきだと考えるようになった。社会的に夫より重要な職務を行う女性は自らをウルフの長 өрхийн тэргүүлэгч と考え行動している。

"ウルフ ゲル(家) өрх гэр"においては、"ウルフの長(家長)"である者とそれに従う者という関係が存在する。一方、"ゲルブル(家族)"にあっては、家族の成員には、家族法 гэр бүлийн хуульにおいて、同等の権利が保障されている。社会における職務はそれほど重視されない。

"ゲルブル(家族) гэр бүл"と "ウルフ ゲル(家) өрх гэр"とは異なる概念として捉える必要がある。

### ◇子供の "姓"

この違いはまた、家族内での子供の "姓" においても見ることができる。例えば、現在モンゴル社会の家族では、父親の名前でのみ "姓" をついている。この慣習は今なお堅持されている。例外として、父親が明らかでない場合や母親によってのみ養育されている子供は、母親の希望により母親の名前を "姓" としている。これは昔も行われていたことである。こうしたことが何を示しているかと言うと、家族の平等の権利がさだめられていても、"ウルフ ゲル(家) өрх гэр" には、慣習、旧い関係の名残が見られるのである。これは、"ゲルブル(家族) гэр бүл"と "ウルフ ゲル(家) өрх гэр" が異なるものであることを示している。"ゲルブル(家族) гэр бүл"については、家族法 гэр бүлийн хуульにより、男女平等の権利が保障されているのにも関わらず、家族内のことにおいては、まだ少し男性に優越した権利を認める "ウルフ ゲル(家) өрх гэр" における旧い慣習が存続していると言えよう。これもまた、"ゲルブル(家族) гэр бүл"と "ウルフ ゲル(家) өрх гэр"の暮らしの有り様の違いの一端である。こうした両者の異なる面と一致する面を認識することにより、家族における社会関係がより明らかになる。

この背景には、権利上の関係、経済的な関係、慣習的な関係等があり、家族関係においては古い残滓が見られる。現在(1984年)も新しい関係が定着したと言えないものがある。

### 家族内の多様な社会関係

「家族内では法的関係(権利上の関係)、経済的関係、慣習的関係等多様な社会関係が見られる。そして、それらは今も変化し続けている。

#### ◇経済的関係：集団化(協同組合化)の時期の家族の動き

集団化の時期の家族の動きには、社会における家族の経済的関係の発現の一端が見られる。

集団化(協同組合化)の時期の家族の動向として次のようなことがあった。

集団化運動の時代、家畜を社会化した。

この頃、地方には、家畜千頭を所有する家も2千頭所有する家もあった。このとき、家単位で、家畜頭数を数えた。

例えば、一つの家が家畜60～70頭を所有しているといった場合に世帯の分解が行われた。

複合家族 *нийлмэл өрх* の場合、複雑な動向が見られた。以前、1つの家、世帯であったものを、2つの家や3つの家に分け、解体した。ネグデル以前の私経営のときは分家しなかった。

昔は複合家族 *нийлмэл өрх* で、例えば、娘がいて、娘の結婚相手が財産持ちでなかった場合、結婚相手はその家の婿に入った。一般に婿入りは嫌われた。よって、豊かな家はちょっと貧しい相手を娘の婿にした。

一方、豊かな家で息子は17歳か18歳～20歳ぐらいで結婚する。働くのが嫌いなあまり真面目でない息子の場合は独立させないが、普通は結婚を機に独立させた。これが、伝統的な形だった。

一方、集団化(協同組合化)が始まると、家の分解の傾向が見られた。

するい人間の場合は、夫と妻をそれぞれ別の世帯にした。こうしたことは文学にも出てくる。

以前は、経済的な事由で婿に入るということは良くないと思われていた。

しかし、近年は違ってきており、1960年代～80年代には伝統と異なる傾向が見られる。というのは、娘に拠る、娘を頼るといったことが出てきた。とくに定住地ではよく見られる。文学や映画に出てくるが、これについては経済的要因を見る必要がある。

#### ◇権利関係 - 法的関係

家族法は、家族の権利関係・法的関係を定めている。家族になると、子供を育て、互いに父母や兄弟を援助する等の義務を追うこと、また平等な関係を保障している。また、家族法は家族内の財産関係を定めている。

#### ◇家族内の倫理 *ёс суртхүүн* 的関係

家族内の倫理 *ёс суртхүүн* (道徳・慣習) 的関係を分析することは、現在のモンゴルの家族生活の理解において重要である。

倫理的関係は、二つに区分できる。そのひとつは伝統的関係であるが、これは二面性をもつ。つまり伝統的関係のなかには優れた良いものもあるが、また、古い遅れた、野蛮な道徳関係もあるのである。家族関係には古くさく遅れたもの、現代の文化からみると粗野で野蛮ともいえる慣習がある。良い関

係というのは、精神的関係において、年長者の言葉・教えを尊重する、しきたりを守り従うといったこと等であり、一方、遅れた野蛮な関係としては、一部の家において、その中で、家長(ウルフ *өрөх* の長)が、専制的に他の世帯員を支配する、権力を行使する、世帯員の気持ちを考慮しない、自分の考えを押し付ける、強要する、子供に対し厳しく残酷に接する、規制する、あるいは、夫が妻に対し厳しく様々に見下す、罵る、時には暴力を振るう等である。今は減っていてほとんどないが、一部の家庭では見られ、訴えられて法的問題となるケースもまれに発生する。こうしたモラル上の遅れた関係は、今日では批判され、誤ちとされ、嫌悪されるといったことが社会一般に見られるようになってきた。

現代、今日の状況において、新たに出てきた事象は数多くある。

#### ◇新しい事象 - お祝い

例えば、家族の名誉を仕事や労働でもって称えること、家族の生活の環境改善、快適な暮らしのための努力、子供や女性の身なりへの配慮、子供を必ず学校に通わせること、高等教育への進学など。家族内では、誰か正しい者・賢明な者の意見に従うなど、新しい関係が形成されつつある。特に家族内の倫理面において、女性が社会で認められること、女性を支援する新しい習慣が生まれてきている。

また今日では、モンゴルの家族のなかで、子供のみならず、若者の誕生日を祝う習慣が広まっている。これは特に都市部で新たに出てきたものである。古いモンゴルの慣習では、誕生後7日経過後に子供を洗う儀式を、また子供が3歳になったときに髪を切る儀式を行っていた。これらの祝い事は今ではほとんど行われなくなった。髪を切る儀式は、地方では存続している場合もあるが少なくなっている。一方で、子供の誕生日が祝われるようになった。昔の伝統的習慣では、3歳以上の子供、若年者の誕生日を祝う習慣はなかったが、現在は、大学生や学生、子供たちの誕生日を祝うようになった。伝統的習慣では、年配の人々についてのお祝い、60歳、80歳、90歳の祝いが行われてきた。昔は50歳は祝ったが、70歳のお祝いはなかった。現在では、50歳、60歳、70歳、80歳のお祝いが行われている。

現代の慣習では、家族の成員が学校を卒業すると卒業のお祝いを行ったり、学者となったお祝いなど、一般に「学問に関わるお祝い」ノミン・バヤル *номын баяр* をするようになった。“ノミン・バヤル”は都市部で多く行われる。この他、現代モンゴルにおける新しい慣習として、国際的なお祝いが行われるようになった。都市部では、毎年、12月31日の新年のお祝いや、3月8日の「国際女性デー」、5月1日の「メーデー」、7月11日の国家祭典「革命記念日」、11月7日の「10月革命記念日」等が広く祝われるようになった。都市部の一部地域では3月18日の「軍隊記念日」、5月9日のドイツに勝った「戦勝記念日」も祝われている。また、9月1日は「学校開設記念日」である。

ここ10年余り、6月1日の「国際こどもの日」に都市部では行事を実施し祝っている。「国際こどもの日」を祝うに際して公的機関は、実質、国から父母たちに援助を行っている。例えば、各公的機関はその職員・労働者の子供たち、就学児童に対して、公的機関が費用を負担して映画や劇、サーカスを鑑賞させたり、公的機関の長がその機関の職員・労働者を招いて、20トグルクから300トグルク相当の菓子や果物などの贈り物を用意してもてなしたり、画や詩、歌、踊りのコンクールやスポーツの試合等を開催し表彰するといったことが行われている。これらにかなりの費用を支出して執り行うようになった。また、6月1日、全国的に、すべての保育園・幼稚園、子供病院がその管轄下の子供たちに約5トグルク～7トグルク相当のプレゼントを贈っている。

### ◇家族内の倫理的関係の変化 子供に対して

倫理的関係の中で、子供への対応の変化が見られる。

昔は子供を大事にするといったことがあまりなかった。子供の数の多い家族では、子供は父母の食事とは別の食事を取った。客人への料理を子供たちが食べることはなかった。子供たちは安価な服装を長期間着用した。子供は大人(一人前)ではない、大人のように扱う必要はない、子供は所詮子供、といった認識であった。しかし今は、子供は子供だが、大人よりも特別な存在という考え方方が生まれてきている。こうしたことから、家族内で、子供をめぐる倫理面の全く新しい関係が生まれてきていると言える。子供の前では口論しない、子供の側で両親はけんかをしない、子供の側では近所や知り合いの人について悪口を言わない、子供の側では邪悪なことは言わない等、多くの倫理的なこと、モラルが次第に形成されてきた。

また、家族内の倫理的関係において、現代の文化に関係した新しい様々な現象に関わる規範が生まれている。特に、都市部定住地域において、家族の倫理的関係において、原則として対等・同権であること、束縛しない、自由であることが非常に強力に広まっている。

### ◇家族内の経済的関係

近年のモンゴルの家族内には、経済的関係がかなり存在する。しかし、家族内の経済関係が、より簡易なものになる傾向が見られることには注意を要する。これは、現在のモンゴルの家族が社会において、より狭小なものになってきていることに関係する。換言すれば、生活面、経済面での様々な支援、相互扶助がなされなくなっているのである。例えば、もっとも身近なもので、都市部では、仕事をしている人間は、職場で昼食を取る、職場を通して保養や休養を取る、また、職場を通して生活面の重要なサービスを受ける、これは例えば車などの輸送手段を得る、薪や燃料、入手困難な物資を得るといったことなどである。また、長期間病気を患う、家族内で不幸や災厄に遭遇するなどの場合には、公的機関が物質的・金錢的な支援を行うことが通例である。

### 社会における家族の経済的役割

経済関係は、家族の経済的役割、経済的な家族内部の関係を基本的に表わしている。

先に述べたように、社会的に家族が果す役割は次第に縮小してきている。

### ◇家族の経済的役割の縮小

社会がその成員の暮らし・生活のために、またその物質的需要に対しこれを満たすように恒常に配慮すること、この方面で国として担う役割・任務がある。こうした状況のなか、家族が社会において果す経済的役割は小さくなっている。

例えば、家族の誰かが労働能力を喪失した場合に、社会が提供する支援がある。労働能力喪失に対する手当・支援がある。例えば3日～9日間治療を受ける場合、10年以上勤続の人には、賃金の90%が支払われる。これらは労働法によって規定されている。また、長期間の労働能力喪失については、第1級、第2級、第3級といった等級が定められている。各等級において賃金の何%を支給するかが定められている。また、この他、養育者喪失の場合に、社会から養育者喪失手当が毎月支給される。養育者喪失というのは、家族において養育者である父母のいざれかを失った場合であり、養育者喪失

手当がある。この他、学校へ通学させる、子供たちを幼稚園で養育する、医療を受けさせる、これらすべてに国の基金から無償で支援が行われる。例えば、普通中学校の学生一人の教育に国から年間700トゥゲル余が、技術専門学校の学生一人当には7000～10000トゥゲル、大学生にはこれ以上の額が国の基金から支出されるのだ。

このため、こうしたかなりの金額の資金を、家族の枠組みで蓄える必要はない。家族がかなりの額の余剰の金を貯蓄する経済的必要がなくなったのである。

#### ◇経済関係における家族の役割の変化

他方、家族には多くの関係があるが、経済的関係の他に、倫理的関係が大方において問題を決する場合においても、家族の経済関係の役割の低下がみられる。

例えば、革命前は、その家の息子が結婚するに当たっては、どれだけの資産を息子に分与するか、また、娘を他家の嫁がせる側はどれだけの持参金 <sup>トゥゲル</sup> 用意するのか、例えば500トグルクを与えるとか、50000トグルクを与えるとか双方が相談し双方の合意を経て、若者たちが結婚するといったことが行われていた。

今は、そのようなことは全く行われなくなった。結婚式および宴を行い、父母は結婚式の衣装や指輪を買い与えたり、祝いの品を贈る等の2、3千トグルク程度の贈り物をするだけである。必ずしも贈り物が必要なのではなく、贈り物をしないこともある。そのため、結婚に際しての家族の関係は、純粹に倫理的関係となっている。換言すれば、結婚する者同士の気持ち、心の問題で、互いの合意がなされれば家族となるのであり、経済的な要求、圧力はなく、経済的な条件は全く問題にされない。

結婚し家族となった者は、労働による賃金でもって生活を充足できるため、若者たちが新家庭を築く際に何らかのまとまった資本が必要となるということはない。徐々に自分たちで生活を整えていくて生活する。こうしたことが結婚において慣例となった。経済関係における家族の役割は縮小してきたと言えるのである。

#### ◇相続について

相続するということがなくなってきた。家庭内のモノ、家具や日用品を世代間で受け継ぐだけで、また、生産手段としてのモノを世代間で相続する必要がなくなった。例えば、小さな金属加工場を父親が経営していて、息子にその工場を継がせるといった問題が生起することはない。換言すれば、個人経営というものが存在しなくなったのである。社会に個人の企業が存在するということ、個人経営、私企業といったものが法律で禁止されたのである。よって、企業を持つ家族はなくなり、家族の財産に関して、生産手段の相続はなくなった。

一方、地方においては、少数の家畜を、世代から世代へと相続することは行われている。しかし、今日の牧民は私有の家畜を、個人経営の生産手段とすることはできない。不可能となっている。

個人経営を行って、その収入を経営の拡大や補填や改善に支出することはなくなった。

例えば、父母から得た10頭の馬、5頭の牝牛、羊を個人経営で飼育して、これによる剩余生産物を市場で売るといった生産環境は失われている。日常的に市場で、乳製品その他の家畜の生産物、毛や皮を売るといったことはできない。また、そのような市場はない。このため、このような相続した家畜は、その家族の生活の糧・手段として利用されるだけである。生活において必須・必要なモノを、その副業(補助経営)から得るといった形で利用されている。

### ◇家族の経済的役割縮小の負の側面

社会における家族の経済的役割の縮小が、家庭における子供の教育において、家族の若い世代の労働教育および経済教育に負の影響を及ぼしていることを見落としてはならないと考える。子供が自由時間に労働に勤しむといったことがない。せいぜい床掃除やゴミ出し、皿洗い、洗濯程度である。休日は読書や近所の子供と外で遊ぶ、テレビを見る、映画館で映画を見る、学校の運動場で遊ぶといった具合で、子供たちには労働の場がない。近年子供たちには、家庭における労働教育の環境、条件がない。

一方、牧民の子供たちの場合はこれと全く異なる。休みの時は、家畜の世話をする、仔羊・仔山羊を放牧する、父母を手伝う等労働教育は幼いときから受ける。しかし、成長して都市部・定住地に住むことになると、牧民の労働の訓練・経験は不用となる。こうして、労働の伝統的な訓練が次第に放棄されることになる。このような好ましくない事象が生じている。

以上のこと全般を鑑みて、また社会的な多方面の必要・要請から、近年、党[モンゴル人民革命党]・政府は、次のような問題を提起している。副業・私的経営を、公的組織・機関のみならず、家族の枠内でも行なうことが望ましいといった意見が出されるようになってきた。都市部では小さな菜園が夏の別荘のそばに作られている。また、固定家屋に住んでいる場合やゲルの囲いの内側で野菜を栽培することが可能となり、そのような場所があれば、夕方の自由な時間帯に子供たちが労働を学び、労働の喜びを知ることになる。その他の副業経営もある。近年、新聞では、樹木の果実の採取やキノコ取り、野草をつんで利用すること等を取り上げている。しかしながら、家庭において、副業・私的経営を行うといったことは、開業への環境が整っておらず、次第に減ってきている。こうした状況は労働教育の欠落をもたらしている。一部の社会主義諸国では、新しい取り組みが出てきた。例えばハンガリーでは、個人の家屋の建設が行われるようになっている。モンゴルではこうした実践は無い。モンゴルにおいてはまだあるが、こうしたことは、一般に社会的需要基盤を豊かにし、さらには、次世代の生活体験、労働教育、経済教育に重要な意義をもつ。モンゴルでは、近年、ここ10年、特に経済教育について特別に配慮するようになってきた。

### ◇経済教育の必要性

労働者の経済教育のここ数年の後退は、また家族をめぐる問題を引き起こしている。どういうことかといふと、一部の人々は、全てのモノを社会から貰えるように思っているのだ。例えば、学び、学問をし、専門を身につけ、その他全てを社会が与えてくれるように考えている。つまり、賃金を受け取り、夕飯を食べ、翌朝になると、どのみち再び労働し賃金を得る。だから今日飢えることはなく、明日のことでも悩むといったことはない。子供を産み育てる際にも、社会から多くの支援を受けることから、父親が、今日100トゥゲルの仕事をしたから、今日50トゥゲルを皆で食べることに使い、30トゥゲルは後日の必要に貯蓄し、20トゥゲルを明日のために取っておこうというふうに考える必要はない。

こうしたことは60年代～70年代と、経済面の教育の弱さが顕著となり、経済観念の低さは、社会生活にも投影される。企業で働いているが、ただ働くだけで、その企業が赤字経営か収益を上げているかには無関心である。自分の働く企業を黒字経営にし、収益をあげさせ、労働者の暮らしを向上させようといった思考は縮小している。そのため廃棄物の有効活用も行き詰まっている。潜在的な可能性への追求も減り、節儉も後退している。このため、党[モンゴル人民革命党]・政府は、資源の活用、

節減、廃棄物の再利用といったことを呼びかけ、スローガンを掲げ、実践しようとしている。その際、こうした修練をどこで積むかというと、それは家庭、家族の生活の場である。家庭が起点となり人にもたらし、その後、社会に達する。これは広範囲に現出するものである。一方、矛盾と言えば、社会主義社会が発展すればするほど、家族の経済関係は狭小なものとなる。このため、この矛盾の解決、このことにどのように正しく向き合うかといった問題が生ずるのである。

これに関しては、ソ連および兄弟社会主义国において様々な対策が取られた。ドイツ、チェコ、ハンガリー等の社会主义諸国は、旧く資本主義にあって、かなり高度な発展をみた国々であった。資本主義時代の人々は、金の価値を熟知していた。なぜかというと、実際に資本主義社会の時代には金が無くなると人は苦境に陥った。また、人は金により多くのことを解決できたのである。

一方、我が国では、例えば、学校に入ろうとして50000トゥゲルを用意し試験を受け、試験に落ちたらそのトゥゲルは使われず、無用となる。その後、勉学に励み学習して、金を払って再度学校で学ぼうとしても、国は金を受け取らない、そのようにはできないのである〔国は国民個々に対して、様々な割り当てを行う。受験チャンスも国からの国民への割り当ての一環であり、割り当ては容易に得られるものではない。お金がものをいう社会ではないのである---筆者注〕。このように金では解決できないことがある。他にも金では解決できない多くの事柄がある。例えば、急に身体の具合が悪くなり手術が必要となったとして、その病院に医療の実際の条件があれば、金の有る無しに関わらず、手術はなされる。どれほど金があったとしても、その病院に条件が無ければ治らない。こういったことが社会主义国では起きる。金の力は制限されたものなのである。しかし、資本主義においては、昔、資本主義であった時代には金が全てのことを解決した。そのような状況下では、人は何であれ金の値打ちをわかっていたのだ。例えば、ドイツ、チェコ、ハンガリーでは人々は、我が国よりも金の値打ちを知っていたのである。しかし、モンゴルはそうではなく、資本主義が未発展だったために、革命以前からモンゴルでは、商品経済関係は非常に遅れたものだった。伝統的な思考、心性にあっては商品貨幣の価値を知らない今まである。社会主义に入って商品・貨幣関係は、半商品関係、半商品生産となった。換言すれば、貨幣の大部分の役割は破棄されたのである。このため、経済面で、経済の意味内容の理解においては、少なくとも金の値打ちについての理解は、充分でないと言える。そのため、経済教育では至らない面が現出している。こうした要因を考慮すると、家庭における経済関係、暮らしにおける適切な経済活動が、重要な意義をもつことが判る。

#### ◇飢える環境にないモンゴルの家族、"寝そべり <sup>ハブテー</sup> хэвтээ" とあだ名される者

今日、モンゴルには、飢えている家族はない。しかし、環境を利用し可能性を追求すれば、今よりももっと良い暮らしをすることができるのに、こうした良い暮らしをしていない家族が存在する。それは、人が暮らしにどのように向き合っているのか、家族の経済生活をどのように営んでいるのかということに關係するのだ。例えば、酒飲みの人の家族の暮らしには困難が生起するといったことがある。不足はあっても、飢えが常態化することはない。どんな人であっても、飢える環境はない。このことは、別の角度から言うと、悪い影響を及ぼしているのだ。どういうことかというと、怠惰な人間でも食糧は十分に得られるのである。怠惰な人の家族は、時には、暮らすことのできる生活水準よりも下の暮らしを余儀なくされている。地方でも有名な怠け者が存在する。例えば "<sup>ハブテー</sup> хэвтээ" とあだ名される者がいる。日がな一日、ごろごろしている者だ。こうしたことを改善するために何

が必要かというと、それは適切な経済教育、体験である。労働教育が必要な場合もある。暮らしの向上への思考を学ぶ必要がある。希求、願望を見つける必要がある。細やかな事が要求されのであって、飢えを知らないことへの鞭はないのである。飢える環境はない。最も怠惰な人間は、5ムングで羊の頭を買って食べる。羊の頭はどこでも手に入る。羊の頭をひとつ食べれば、その日一日飢えることはない。だから人々がこの状況にならないために、適切な経済教育、訓練が必要とされる。この基盤は何かというと、家庭の収入と支出、適正な家計である。収支のバランスについて学ぶこと。一般に、家計の収支バランスについての詳細な研究が求められるのである。こうした方面の研究としてП.Нэргүй"Нийгэм эдийн засгийн төлөвлөгөөийн чухал асуудал"挙げられる。70年代末のモンゴルの家族の収支バランスについての研究書である。

### 家計について

家計の収支の意味を理解するためには、つぎのような事項を理解することが必要だ。

第一に、現在のモンゴル社会において、全ての家族の収入の源泉は、社会的労働による賃金 цалин である。家族の収入の構成において、賃金よりも多い割合を占めたり、それ以上に影響を与える収入の源泉はない。このような政策が社会で実施されている。賃金が世帯収入の主要な源泉であるとする政策が取られている。その理由は、賃金以外の強力な源泉が、家族生活において存在すれば、家族の成員は、現在の社会的労働に対する興味関心を失う。そのため社会では、こういった方針が取られているのである。

### 賃金体系について

だが、家族の収入源である賃金を、モンゴルの現時点の発展水準においては、社会階層の区分によって示すことはできないのである。例えば、社会階層と言えば、労働者階層、協同組合の牧民階層、知識人階層、といった3つの階層がある。この3つの階層内はまた構造が複雑である。例えば、労働者階層は3つに区分される。工場労働者、サービス部門の労働者、地方の労働者である。工場労働者は、重工業の労働者と軽工業の労働者とに区分される。協同組合の牧民はその中で、牧民と農民とに区分される。地方の労働者にもまた一部、農民がいる。それは国営農場の農民で、国営農場の牧民、国営農場の機械係(トラクターやコンバインなどを扱う者)がいる。協同組合の牧民階層も牧民、農民と区分される。この農民のなかにも機械係がいる。知識人階層は、その中で、各種専門の知識人、公務員と区分される。公務員は、中級専門公務員、上級専門公務員とに区分される。こうした各種グループは、その中で分かれており、そしてこれらは、またその中で多く分かれている。こうしたグループは、どういうことかと言えば、賃金でもって、このグループの枠を決めることはできないのである。例えば、労働者階層の賃金は一ヶ月 700-800トゥゲルとか、知識人階層は800-900トゥゲルとか、決められないでのある。なぜかというと、労働者の賃金は、専門の等級に関係する。その職務の難易によるのである。難易度の高い専門の労働者の賃金が知識人階層の賃金より高いことは多い。難易度の高くなき専門の知識人、難易度の高くなき知識的職務を行っている公務員が、中級専門レベルの労働者より賃金が低いことは多々ある。賃金は別体系のシステムなのである。これは、労働の軽重や、労働の難易度といった労働の実質に直結した賃金システムである。また、賃金は学歴に直接関係するのではない。賃金システムは教育システムに直結しない。高等教育を受けた者が、中等教育を修了したものよりも

必ず高い賃金を支給されるといったことはない。2つ、あるいは3つの高等教育機関を卒業したものが、ひとつの中等教育機関修了者よりも低い賃金を支給されているという事例はたくさんある。このように、賃金システムは教育システムに直結しているのではない。

家計における収入については、こうしたことを理解しておく必要がある。

### 副収入・副業について

家族の収入には賃金の他に、付加収入がある。地方の家族の付加収入の源泉は、個人副業経営にある。この付加収入は必ずしも金銭、貨幣の形態で入ってくるのではない。例えば、私有家畜として、乳牛3頭を所有し、夏期は毎日8リットルの乳を搾乳する。乳牛をもたない家庭は毎日2リットルの牛乳を2リットル=4ムングで購入するが、この費用が不用となる。つまりは家族の収入が増える。あるいは、野菜栽培をする家族が100kgのジャガイモを購入し、冬期3ヶ月間毎日2kgのジャガイモを食べるとして、価格は変動するが、1kg=1トゲルとしたら2kgで2トゲルの毎日の支出を減らすことができる。こうして、家族の付加収入となるのである。また、同時に一部少数の家族が、副業・私の経営の生産物のうち余剰生産物を国が許可した市場価格 *зах зээлын үнэ* で売却し、市場使用料 *захын тэлбэр* を納めて、家計に追加収入を得ていることもある。これは非常に少数の家族のケースである。こうしたことが、今後適切な厳しい監督下で行われるならば、社会にとって、社会主义の状況下において、有益な事象であることは明白である。なぜならば、野菜やその他の食糧を、国民に十分に供給することが困難な状況であるからだ。そのため、増産した生産物でもって労働者が食糧供給することを支援することは、社会にとって有益であり、社会的な重要な意義を有する。人の自由な労働が社会に有益に利用されるのである。もし、家畜を飼育することができなければ人は時間を無為にを過ごす。時間というものは社会において最も重要な富である。時間の節約は、経済のいかなる段階においても行われる。これは社会において金を有効に使う基なのである。現在の社会主义の時代は、社会の時間を社会に有益に使っている。家庭においては、休養、文化的活動、学習、子供の養育、家族生活の向上等が行われる。反面、時間を無益に使うならば、時間というのは金であるため、無駄にうろつき社会的な事件に関わり、さらに他者の時間を浪費することに至る。このため、家庭における労働は重要な意義を有する。特に、収入の源泉として利用することが非常に大きな意義をもつのである。

家族の他の副収入について言えば、都市部において一部の家族は、自らの希望により、社会において副業を行うことにより収入を得ている。こうした副収入は限られている。つまり我が国においては、複数の労働に就くといった経験、事例が少ないのである。例えば、ソ連では次のようなことが行われている。8時間労働しその後2時間休憩し、夜間、病院に行き病院の床の洗浄などの補助作業を4時間行ったり、店舗での荷物の積み下ろし、夜のレストランでのウェイター・ウェイトレスの仕事等。我が国ではそうした実践はない。しかし、我が国では数少ない事例、条件下において可能な副業の形態がある。専門性の高い専門職の人が講義を行う、教授する、指導やコンサルタント業務を行う、試験を行う、この他書物の執筆や画絵・芸術作品の製作等々である。教師や名手が行うのだ。その他の副収入のある労働はない。このため、家族の収入および副収入の額についての把握は容易である。副収入の元が何であって、その家族にどれだけの収入をもたらしているかを容易に突き止めることができる。副収入にはひとつ負の面があって、これはいかなる社会においてもおきる現象だが、例えば国家資産の横領である。モンゴルでは、こうしたことは即、明るみに出るのが通例である。

## 家計に対する支援 - 特別手当

家族の収入は、家族の支出に使われる。その家族の支出は、まずは家族の成員数に関係する。家族の成員には、労働可能な世代、就労者数と扶養家族数、この二つの関係が家族の収入、支出の関係を条件づける。とくに子供が多く、高齢者の家族員を抱えるケースでは、家計の収支バランスに困難を生じることがある。このため子供の多い家族、多くの子供をもつ母親に対して、社会から特別な手当が支給されている。手当は0歳から16歳までの子供の数により増額され、国から年1回、現金により支給される（Олон хүүхэдтэй эхчүүдэд олгох тэтүүр олгох хууль 多くの子供をもつ母親に支給する手当についての法律）。

これは多くの子供を持つ家族の家計への支援となる。

## 家計に対する支援 - 価格政策

また、わが国の現在の発展段階において子供の数が相対的に多いことを考慮して、子供の衣服、子供の玩具等、子供をもつ家族に必要な日用雑貨の価格を社会的に必要な費用よりも、低い価格に抑えている。例えば、子供服の企業など、子供に必要な製品を生産する企業の支出、製品の生産コストよりも、製品の価格は低く抑えられている。上回った分の支出を国が補填しているのだ。国家交付金という項目から補填している。子供用品を生産する企業は常に赤字経営である。こうして国は多くの子供をもつ世帯の家計を支えている。さらにまたわが国では国民が広く必要とする物品および食料品の価格を通して、政策的に多くの子供を持つ、収入の低い家族の生活を支えている。こうした政策を党[モンゴル人民革命党]・政府が行っている。どういうことかと言うと、第1に、国民の広い層が最も必要とする物品および食料品の価格を一定にしているのだ。具体例をあげると、わが国ではこの30年間価格変動がない物品が非常に多い。食肉価格、小麦粉の価格、食塩の価格、砂糖の価格、蔗糖の価格、お茶の価格、ろうそくの価格等々。日用必需品、マッチの価格、これらは、ここ30年間変わっていない。40年、50年間変わっていないものもある。原材料としては木綿生地の価格もまた長い年月変わっていない。30年余りだ。

こうして値上げしないために少し困難な状況に陥った原材料もある。

70年代のはじめ、60年代の末頃、20年間値上げしていなかったものの価格が引き上げられた。多くの種類の模様入り綿布、中国綿布と呼んでいたこの綿布の価格が引き上げられたのである。どういう訳かというと、この価格の安い綿布を、当時中国人たち（その頃は往来が多かった）が、帰国する際に非常に多くの布の生地を購入し、上着を作る際に、中綿代わりに綿布をいたしたことから、綿布の価格がひきあげられたのであった。ちなみに、綿の値段は何年間も据え置かれたままだった。

こうしたことはまた、一般的収入、中程度の収入の子供の多い家族の生活を支えていた。

収入の多い家族にはこうしたことは無関係で、それは例えば、常に小麦粉を使うのではなく麺類や春雨を食べる、あるいは、ジャガイモではなくトマトを食べるというようなことだ。トマトは1キロ10トグルクだがジャガイモは最も高値でも1キロ=2トグルクである。

## 家計に対する調整 - 価格政策

一方で、高収入の家族に対しては、収入を適正な額として一定限度、範囲内に留める方針だったの

ではと考えられる。というのは、主に高収入の家族が使用する物品・資材の価格を引き上げていったのだ。2年に一度、恒常に引き上げたり、4・5年で値上げする等。例えば、金製品、銀製品の価格は、この70年代以降に3度引き上げられた。宝石類は2度値上げされた。高収入の家族が購入する長期間使用するもの、例えば絨毯、自動車、バイク等の価格は値上げされた。一方、わが国において生活に必要な機器類の価格は値上げされていない。例えば、ミシン、掃除機、冷蔵庫、テレビ等だ。最近テープレコーダー、ラジオの価格は下がった。これらは広く使われる文化的物品である。これは家族の収入・支出を適正に調整するにあたって有益である。価格政策を通して、家計を賢く運営することに寄与している。

また、家計を適正に調整する際に、損失を招きバランスを失わせかねないものとして、酒がある。このため酒の価格は、近年、数倍に引き上げられた。酒は家族の収入・支出をひどく損ねる食品である。

家計の支出の中心は、食料、衣服、文化的な物品類である。しかし近年の調査によれば、家計の支出項目において、文化的需要による支出がより増加する傾向を示している。これには、文学書の購入やテレビ、テープレコーダー、カメラなどの文化的用品の購入、芸術鑑賞、映画やオペラ鑑賞、博物館見学などがある。最新のものとしては、国内および国外旅行がある。非常に増えている。こうした国内外への旅行は、ここ10年で新たに発展してきたものだ。

労働者の幅広い層において、非常に旅行が行われている。外国旅行が非常に発展している。近年は公的機関の費用負担による外国旅行とともに、私的な支出によって旅行する人々が増えている。これは、家計からの大きな支出である。

### 家族間の関係およびその発展の方向

”ウルフ ゲル(家) ᠠpx ᠠp” 間の関係と ”ゲルブル(家族) ᠠp үүл” 間の関係は、少し異なるものとして見る必要がある。

まず、”ウルフ ゲル(家) ᠠpx ᠠp” 間の関係について話そう。”ウルフ ゲル(家) ᠠpx ᠠp” という社会的事柄が、社会に対して経済単位(経営)としての経済的役割、人口の再生産の役割、国民および労働者の労働能力の補填、労働環境の保持等の役割を果していた時代において、”ウルフ ゲル(家) ᠠpx ᠠp” 間の関係は非常に特徴的なものであった。特に ”ウルフ ゲル(家) ᠠpx ᠠp” という事象が、社会の経済および経営における役割をある面で果していた時期、この関係は現在より特徴的であった。換言すれば、”ウルフ ゲル(家) ᠠpx ᠠp” は単に社会の一部分であるのみならず、財産の私有関係が支配していた時代において、社会の経済、経営の役割を非常に広範に果たしていたのである。例えば、モンゴルの牧民は私的に私有牧畜経営を営み、その私有牧畜経営は、まず、自らの生活に必要な物資を供給し私的な需要を満たすと共に、また剩余生産物を生産し、それを社会の市場において売り、剩余生産物の売却による収入により家族の生活を補強した。このような場合、家族の経済、生活面を強化し、世帯員、とくに家長の社会における地位を保証し、社会における地位を高める要因となった。

時代により家族間の関係は異なり、特徴的なものであった。例えば、裕福な家族は成員の活動による生産物のうち剩余生産物を社会の市場で売ることができ、また賃金労働者を使役することができる家族の家長およびその家族の成員は、貧困な家族の家長および家族員よりも、社会においてより高い地位を占める条件を有していた。こうした家族の家長は、家族の生活、経済的力を基盤とし、社会における一部の事柄に自らの望むように関わる条件を得ていたのである。例えば、法を犯した場合に、

旧い機関（革命前の状況下で）の関係者に賄賂を贈ることによって法の網を逃れたり、官吏であれば昇進や官職を得ること等に家の収入が影響を与えた。このような状況において、富裕な家 *өрх* ウルフと貧しい家 *өрх* ウルフとの間には対立関係があった。また貧しい家 *өрх* ウルフを富裕な家 *өрх* ウルフが自己の遊牧経営に使役する、搾取するといった関係が多く見られた。

革命後、特に1930年代、1940年代以降、"ウルフゲル(家) *өрх* гэр" 間の関係は変化した。この時期は、特に1920年代・1930年代においては、富裕な個人経営の資産を没収して貧しい個人経営および中程度の個人経営に分け与え、全世帯の経済力をほぼ均等化することが行われてきた。この状況において、家族ウルフ ゲルブル *өрх* гэр бүл 間の関係に主要な位置を占めていた経済関係が次第に、ゆっくりとではあるが、その位置づけを失い始めたのである。

家族ウルフ ゲルブル *өрх* гэр бүл の経営・経済力が、家長および家族員の社会的地位に、直接影響を及ぼすことはなくなった。換言すれば、富裕な家の家長が社会において上位の地位を得ること、貧しい家の者が下位の地位にあって、富裕な家がより高い権限をもつといった関係は根本的に終わったのである。

それに代わって、1930年代、1940年代以降、家族の経済力の均等化がはじまった。二極に分化するといったことが無くなった。酷く貧しい家族もなく、非常に豊かな家族もない、こうした両極が払拭された。概ね家族の収入、家族の経済力は、均等化し始めた。

この頃、家族ウルフ ゲルブル *өрх* гэр бүл 間の関係に、現在の新しい関係が定まる社会的基盤が整えられた。

### 近年の家族関係の変容 発展の現段階

発展の現在の段階、換言すれば50年代、60年代以降、現在に至るまでの家族間の関係は、次のような様態を示はじめた。

第1に、家族間の関係がいつから始まるのか？というと、まずは家族が拡がる時から、言い換えれば、家族の一部の成員、例えば子供が家族の長となって独立するとき、このときから家族間の関係が始まる。換言すれば、息子が結婚し、娘の場合は他家の嫁になるときである。この関係には、以前あった経済的関係や干渉はほぼなくなっている。息子が結婚する際に、息子のために資産分けをするなどの慣習的なものは基本的になくなっている。子供には、ただ生活に必要なものを贈り物として渡すことは今も行われているが。高額なものではなく、ちょっとしたものである。

第2に、家族間の関係が、平等な関係になってきた。換言すれば、豊かな家の息子または娘が、豊かでない家、所得において中程度あるいは低い所得の家の子供と結婚して、姻戚関係となった場合に、豊かな家と豊かでない家との間で、一方が他方に対して優越する、支配するといった力関係ができるといったことはなくなった。互いに対等であり、家族となった者たちの心、気持ちの問題である。言い換えれば全く道徳、慣習上の問題であって、実質はなくなった。以前はどうだったかというと、豊かな家の者が貧しい家の者を嫁とする場合、貧しい家はそれにより使用人となるなど、様々な困難が生じた。今は、そういったことは無くなっている。

第3に、家族間の関係に近年新たに出てきた事象は、伝統的に引き継いできた家の近隣関係（イル・サーハルト *айл саахалт* の関係）が、新しい状況を迎えているということである。昔は、イル・サーハルトと呼ばれる家の近隣関係があった。これは何かというと、同じ土地・同じ川岸の人々が、主と

してお互いに友人、知り合い、親戚である人びとがついた集団、家の近隣関係であった。こうした関係は他の遊牧民もある。たとえば、カフカス山脈の山の民、アヴァール人は2、3家族や4、5家族が集まり近隣関係を形成した。これと同様にモンゴルにおいても、3、4家族がサーハルト・イルとなって、関係をつくった。しかし、今では全く異なる形態を取るようになった。

特に、遊牧民の間では、都市化が進行するとともに、イル・サーハルトの関係は、非常に変化した。一部では、遊牧民のイル・サーハルト関係は無くなったと言われるようになっている。

例えば、遊牧民においては、定住民族のように、多数の家族、20家族や30家族、50家族や60家族が一か所に近隣関係をもって住むといった経験が少ない。革命前では900余の寺院があつて、数については700とも言われているが、これら寺院において僧たちや商人等、官吏らのイル・サーハルトやホロード（地区）があったのみで、しかしそれらは近代のホロードの生活の経験やホロードの暮らしの基盤になるようなものではなかった。そのレベルには達していなかった。

イル・サーハルトの関係は、夏には解かれた。一部の人びとだけが、例えばラマたちは近隣関係をつくって暮らしていた。

しかし、都市化の進行により、30年代、40年代に始まり現在までの間に、都市のゲル地区では近隣関係が形成されてきた。これは、昔の遊牧の近隣関係のかなりの部分をそのまま保持していると同時に、ゲル地区の近隣関係にはかなり特徴的なものがある。というのは、隣で起こっていることが明白なのである。隣が何をしているか、隣から誰がでてきたか、隣が何か新しいものを買ったか、何を売っているか等、噂するといったことは、昔から行われてきたことである。ゲル地区の一つの囲いの中に、数家族、5家族、7家族とか3家族が住んでいて、子供たちは互いに交わり、その中を走り回っているのだ。子供たちは互いに関係を作っている。また、ゲル地区の囲いの住民は、お互いに家を出入りし、例えばお茶を飲んでいる。このようであるため、ゲル地区では、近年、様々なことが始まっている。近年、"良い近所の会 *сайн хөршийн холбоо*" というものができ、良好な近所付き合い (*сайн хөршийн харилцаа*) が生まれている。ゲル地区を歩いていると "良い近所の会 *сайн хөршийн холбоо*" と掲示しているのを目にする。互いに助け合う関係、例えば病気のときに助けたり、薪や乗用の家畜等で助け合っている。この他、父母を助け合うなど生活の中での良好な関係が生まれている。

また近年は集合住宅地域においても新しい関係が生まれている。これはゲル地区の関係とは異なる。近年の集合住宅には居住して20年、30年と短い期間であって、まだ住み慣れていない。一世代が住み終えるといったことは未だ無く、世襲し住むといったことも未だない。居住経験は浅い。

集合住宅で同じ入り口を使う家族がある。一つの入り口から上がる階段の左右の家族、その数は12家族・28家族・64家族など建物の高さにより様々である。これら同じ入り口の家族は、5年、10年経つが互いをよく知らない。同じ建物に住んでいても近隣関係は形成されていない。相互の関係は、古い伝統的な関係と比べ、かなり低いレベルにある。こうしたこととは、近代の暮らしの初期にみられることである。

### 家族間の関係、その発展の方向

今後を展望すると、新しい形態の集合住宅の地区が増える毎に、新たなよい関係が生まれてきている。というのは、古い伝統的な慣習、イル・サーハルトにより家族が交流するのではなく、仕事・専門により、あるいは、興味・関心、文化・教育のレベル、関心を抱く対象によって、例えばスポー

ツ・芸術など、社会の特色・現象に依拠して、近隣関係が結ばれるといったことが始まっているのだ。例えば、芸術関係の人々は、家族ぐるみの付き合いをしているし、雑誌記者、学者・研究者などは専門によるグループで関係を築いている。

家族関係の伝統的な重要な関係は、父母の家族と子供たちの家族間の関係である。

そのほか、兄弟、親戚の関係がある。兄弟関係は、社会の発展の水準、文化のレベルが低い場合に強い。モンゴル社会の伝統・慣習においては、かなり遅れた部族のなかでみられる。かなり辺鄙な地域で、兄弟関係や親戚関係は強い。しかし都市部では、次第に弱まる傾向にある。例えばウランバートルでは、兄弟であっても、年に1度か2度、訪問する程度である。

しかし、親子関係は、今なお強い。それは、旧い遊牧民社会の暮らしにおいて、強固な関係を築いていたからである。親子が助け合うことはよい現象ではあるが、今後どのようになるかはわからない。現代のヨーロッパの一部の国においては、父母と子供たちの関係はほぼ無くなっている。子供が18歳になると、必要なものを与え、受け取り独立する。一方、父母は年金で生活し、ときおり訪れるといった具合である。モンゴルでは異なり、関係は依然つよい。父母のいずれかが亡くなると、子供は遺された親を取り共に暮らすのが通例である。これにはまた影響を及ぼしている事項がある。幼稚園・保育園が今のところ充分でないのだ。父母が労働能力が衰えて年金生活に移行したり、両親のいずれかが死去した場合に親の面倒をみようとしていること、父母に孫や曾孫をみてもらうといった傾向がある。これらは双方の意向によるものである。父母は孫のことに関心があり、子供たちを父母にみてもらうことが多い。都市部では、田舎から祖父母を呼び寄せることがよく行われている。そのように調整されている。家族間の関係、および今後の発展の動向は以上のようなである。

## おわりに

この講義の後、家族の実情・実際を知ろうと、アンケートおよび聞き取りを試みた。当時の社会主義制度下では、アンケートには当局の許可が必要で、許可を得るのは困難だと推測された。そこで、友人や顔見知りのモンゴル人等、つてを頼りに行い、ウランバートル在住の14の家族から回答を得た。例えば、友人の家族にアンケートを頼もうとしたら、友人の父には党员だからと断られ、代わりに友人が聞き取って記入してくれた。また、学生寮によく来る友人には、自宅に伺い直接会ってアンケート項目をもとに聞き取りを行った。そんな具合で、広範囲に行うことはできなかったが、私にとっては貴重な体験だった。

アンケート項目は、本人について、配偶者について、結婚、子供、子供の教育、家事、両親の介護、親戚、近隣関係等、衣食住多岐にわたる。細かな質問にも丁寧に答えて戴いた。この場を借りてお礼申し上げます。回答数が少ないので、統計的な何かを求めるることはできないが、1984年のモンゴル、ウランバートル在住の家族のあり様の一端を知り得るかと思う。次頁家族についてのアンケート・聞き取りを資料として添付する。

## 《資料》

## 1984年、家族についてのアンケート・聞き取り

## 質問項目

(T. = トウガ ルウ)

本人情報	(a)年令・性別 (b)出身地 (c)首都に来た時期 (d)現在の住居 (e)以前の住居 (f)職業について (現在の職業、以前の職業、今後について) (g)労働時間 (何時から何時まで、計何時間) (h)給料・賃金 (額、賞与の有無) (i)最終学歴
配偶者について	(a)年令 (b)職業 (c)労働時間 (d)給料・賃金 (額、賞与の有無) (e)最終学歴
結婚について	(a)なれそめ (b)結婚式 (どこで、共に祝った人々) (c)結婚に際しての父母の行動 (アドバイス、援助・支援) (d)父母との関係 (将来の介護等)
子供について	(a)子供の有無 (b)家での子供の世話、見守り (c)子供の教育について
家事について	家事の分担: ((a)料理 (b)洗濯 (c)食料の買い出し (d)掃除 (e)その他)
「住」について	(a)現在の住居の形態 (アパート、ゲル) (b)住居の形態についての意見 (アパート、ゲル) (c)隣人関係について (d)夏の暮らし (別荘について)
「食」について	食事の仕方 (朝・昼・晩の食事、外食の有無 (食堂・レストランの利用))
	食料の入手先、店舗からの1ヶ月の購入量・金額 ((a)肉(b)小麦粉(c)パン(d)野菜(e)乳(f)穀物(g)バター(h)砂糖(i)コンポート(j)菓子類(k)酒(l)タバコ(n)その他)、地方からの食料入手の有無
「衣」について	衣料 (店舗からの購入、自分で縫製、店舗からの購入品目)
暮らし全般	
保健衛生: 保健衛生費 (歯磨き粉、歯ブラシ、石鹼、洗剤など)	
医療: 病院および薬局の利用について	
各種生活サービスの利用について (1ヶ月に何度): (a)美容室・散髪屋、(b)公衆シャワー、(c)クリーニング店、(d)靴修理、(e)時計修理、(f)服の仕立て(g)写真館(h)公共バス(i)タクシー	
家計について:	
家の備品、今後の購入予定品: (現在有るもの(a)冷蔵庫(b)洗濯機(c)有線ラジオ(d)テレビ(e)掃除機(f)ミシン(g)カメラ(h)テープレコーダー(i)レコードプレイヤー(j)ギター(k)書棚(l)タイプライター(m)自動車(n)薬箱)	
余暇の過ごし方	
長期休暇の過ごし方、日曜日の過ごし方、平日の余暇、子供との過ごし方	
文化全般	
情報	情報の入手 (新聞・雑誌)、読書 (冊数・種類)、図書館の利用
文化	鑑賞 (1ヶ月に何回) (a)映画(b)オペラ(c)劇(d)バレエ(e)サーカス(f)コンサート
趣味	サークル
旅行	旅行先(a)仕事(b)個人的旅行(c)長期休暇期間の旅行
人間関係 (交友関係・親戚付き合い)	
祝事	社会的祝事(a)新年(b)正月(c)女性の日(d)メーデー(e)子供の日(f)ナーダム(g)革命記念日 個人的祝事(a)誕生日(b)年齢の祝い (50,60,70,80,90 歳) (c)子供を洗う(d)子供の髪を切る(e)新しい家(f)勲章
友人	親友の数、知り合った訳 (幼なじみ、学校、仕事関係)
親戚	親戚付き合い(a)毎日会う親戚(b)週に 1 回以上会う人(c)月 1 回以上あう人
支援	困ったときの支援・誰から(a)金銭的支援(b)労力の提供(c)悩みを分かち合う (心理的)

## アンケート回答 No.1

(T. = トウゲルク)

本人情報	
(a) 36歳・男性(b)バヤンホンゴル県出身(c)17歳の時首都へ来た。(d)現在、アパートに居住。以前は、アパートで、父母と暮らしていた。(f)職業：現在は専門家。以前の職業：大学を卒業後、地方で仕事をしていた。将来、より上の役職・地位を目指している。(g)労働時間：9時～18時。(h)給料：月 650T.(i)最終学歴：大学卒	
配偶者について	
(a)年令：32歳(b)医師 (d)給料：月 775T. + 賞賞 120-150T. (e)最終学歴：大学卒	
結婚について	
(a)なれそめ：大学生の時に知り合った。知り合ってから1年で結婚。(b)結婚式：UBの結婚宮殿で。(c)結婚に際して：父母の言葉；誠実で正直に、幸せに暮らすよう。援助・支援；家具、衣服、お金。最初、妻の両親と同居した。父母はUBのアパートに居住。将来の介護：同居はしないが、自分たちで面倒をみる。	
子供について	
(a)現在子供は2人。幼稚園に通っている。(b)家の子供の世話：自分たちでみる。字の習得、お絵かきを教えている。(c)子供の教育 望むレベル：大学（上級）。望むこと：正直・誠実、すくすくと育ってほしい。	
家事について	
家事の分担：(a)料理：主に妻。(b)洗濯：交代で。(c)食料の買い出し：主に妻。(d)掃除：交代で。	
「住」について	
(a)現在の住居について：国のアパート。2部屋で29m <sup>2</sup> 、アパート代は月 182T. 一ヶ月の電気代は 40-50T. (b)意見：ゲルよりアパートのほうがいい。生活に快適だから。将来：都心のアパートへ移ろうと考えている。(d)夏の暮らし（別荘について）：夏、別荘に行く。利点は；健康的な空気の中で過ごせること。	
「食」について	
食事の仕方：朝晩の食事は家で皆で、昼食は職場で。時折、外食（食堂・レストランで）	
食料の入手先、店舗から、(a)肉(b)小麦粉(c)パン(d)野菜(e)乳(f)穀物(g)バター(h)砂糖を常時購入。時折購入するものは(i)コンポート(j)菓子類(k)酒(l)タバコ。地方から入手するもの：肉は、冬期に牛一頭分の肉を入手。乳、乳製品は時折入手。	
「衣」について	
衣料：店舗から購入する。店舗からの購入品目；コート・外套、スーツ、靴、シャツなど。	
暮らし全般	
保健衛生：保健衛生費（歯磨き粉、歯ブラシ、石鹼、洗剤など）：40-50T.	
医療：病院・薬局の利用；病院へ行く。軽い時は家で、薬局はその都度。	
各種生活サービスの利用について（1ヶ月に何度）：(a)美容室・散髪屋：1度(c)クリーニング店：ほとんど無い(d)靴修理：時折(f)服の仕立て：時折(g)写真館：時折(h)公共バス：常に利用(i)タクシー：ほとんど無い	
家計について：家計の担当者は妻。高額商品購入の決定者：主に妻。	
家の備品：現在有るもの；(a)冷蔵庫(b)洗濯機(c)有線ラジオ(d)テレビ(e)掃除機(h)テープレコーダー（日本製）(k)書棚(n)薬箱。今後の購入予定品：自動車。	
余暇の過ごし方	
長期休暇の過ごし方：保養地に行く、妻は時折外国へ行く。日曜日の過ごし方：家で過ごす、時には父母、兄弟、友人と会う。平日の余暇：家で。子供との過ごし方：一緒に遊ぶ。	
文化全般	
情報	情報の入手 新聞：毎日読む 雑誌：モンゴル語・ロシア語の専門雑誌。読書：主に文学書。2-3冊購入
文化	鑑賞（1ヶ月に何回）：(a)映画；時折、(b)オペラ；時折、(c)劇；時折、(d)バレエ・舞踊；時折、(e)サーカス；時折、(f)コンサート：時折
旅行	行った旅行先：(a)仕事で 10 のアイマクへ。
人間関係（交友関係・親戚付き合い）	
祝事	社会的祝事、誰と祝うか？新年：父母と、(b)正月：父母と、(c)女性の日：友人たちと、(d)メーデー：友人たちと、(f)ナーダム：父母・友人たちと、(g)革命記念日：父母と
	個人的祝事(a)誕生日：家族で(e)新しい家：家族で・客を招いて

## アンケート回答 No.1 続き

人間関係（交友関係・親戚付き合い）	
友人	親友の数：4～5人、知り合った訳：学校、仕事関係
親戚	親戚付き合い(a)毎日会う親戚：父母、兄弟、義父母、(b)週に1回以上会う人：友人たち
支援	困ったときの支援・誰から：兄弟や親戚および親友たちから 心理的困難：友人たちと悩みを分かち合う。

## アンケート回答 No.2

(T. =トウゲル)

本人情報	
(a) 68歳・男性 (b)出身地：トウブ県 (c)首都に来た時期：若いときに首都へ来た。 (d)現在の住居：アパートに居住 (e)以前の住居：ゲル地区に居住。 (f)職業について（現在は：年金生活、以前の職業：体を使う様々な仕事 (h)収入は年金：月 320T. (i)最終学歴：小学校卒	
配偶者について	
(a)年令 62歳 収入は年金：月 320T 最終学歴は小学校卒。	
結婚について	
(a)なれそめ：最初の配偶者が亡くなった後で、知り合った。約 10 年前に。 (b)結婚式は行っていない。結婚は、妻、50歳余、自身（夫）、50歳余の時。	
子供について	
いない。	
家事について	
家事の分担：(1)料理：妻 (2)洗濯：妻 (3)食料の買い物：交代で (4)掃除：妻	
「住」について	
(a)現在の住居の形態：国のアパート。広さ：19m <sup>2</sup> ：部屋数 1。住居費は月 120T. 一ヶ月の電気代：20-25T. (b)住居についての意見：アパートのほうがいい。高齢者には家事が少なくてすむ。夏の別荘について：行かない。	
「食」について	
食事の仕方：朝・昼・晩、家で一緒に食べる。外食はなし。	
食料の入手先：食料品店から購入 (a)肉(b)小麦粉(c)パン(d)野菜(e)乳(f)穀物(g)バター(h)砂糖(j)菓子類(k)酒(l)タバコ)	
「衣」について	
衣料：店舗から購入する。店舗からの購入品目はデールの生地、コートなど。	
暮らし全般	
保健衛生：保健衛生費は月 20-30T. 医療：病院へ行く。 各種生活サービスの利用について（1カ月に何度）：(a)美容室・散髪屋：1度(c)クリーニング店：ほとんど無い (d)靴修理：時折(e)時計修理：無(f)服の仕立て：時折(g)写真館：時折(h)公共バス：常に利用(i)タクシー：ほとんど無い。 家計の担当者：二人で。 家の備品：現在有るもの；(a)冷蔵庫(c)有線ラジオ(d)テレビ(f)ミシン(n)薬箱。	
余暇の過ごし方	
長期休暇の過ごし方：(a)家で過ごす(b)保養所に行く。 日曜日の過ごし方；家で過ごす。平日の余暇：家で過ごす。	
文化全般	
旅行 旅：仕事で 4-5 のアイマクへ行った。	
人間関係（交友関係・親戚付き合い）	
支援 困ったときの支援・誰から：金銭的支援は兄弟から受ける。	

## アンケート回答 No.3

(T. = トウケルク)

本人情報	
(a) 37歳・男性 (b)出身地: ポルガン県 (c)首都に来た時期: 1968年 (d)現在の住居: ゲルに居住。	
(f)職業について: 現在の職業は、運送車の運転手。以前の職業は、トラクターの運転手。(g)労働時間: 運送の仕事をしていると、決まった時間というものはない。(h)給料・賃金: 給料は月 700-900T. (運送がうまくいけば追加報酬が支払われる) 賞与あり。(i)最終学歴: 中学校 7年卒。	
配偶者について	
年令 32歳 職業は会計 給料は月 300-340T. 最終学歴: 中学校 7年卒。	
結婚について	
(a)なれそめ: 同郷 нэг нутаг усанд өссөн。学校で学んでいるときに知り合った。(b)結婚は、妻 17-18歳、夫 22-23歳のとき。兄弟を招いて結婚式。両親は、結婚を快諾、ゲルを建ててくれて、ゲルの全ての備品・家具をくれた。家畜をくれた。結婚生活は、自分のゲルはじめた。	
子供について	
(a)子供の数: 6人。3人は学校に、3人は幼稚園に通っている。自分たちが仕事を行っている時に、上の子が下の子を見ていることもある。(b)子供の教育、将来について: 特に考えはない。分別のある、働き者になってほしいと願っている。	
家事について	
家事の分担: (1)料理: 妻 (2)洗濯: 妻 (3)食料の買い物: 妻 (4)掃除: 妻と子供たち (5)その他: 交代で。	
「住」について	
(a)現在の住居の形態: 5つのハナのゲル。(b)住居の形態: ゲルがいい。理由は私の仕事の特徴による。また、子供の多い人には適している。アパートに住むと、車や備品を置くのに困る。また、費用も高く、支出が大きい。	
「食」について	
食事の仕方: 朝・晩の食事は家で皆で食べる。時折、食堂で外食する。	
食料の入手先: 肉、乳、乳製品については、いつも入用なもの大部分を地方から入手している。店舗からは、(a)肉(b)小麦粉(c)パン(d)野菜(e)乳(f)穀物(g)バター(h)砂糖(j)菓子類(l)タバコを購入。コンポート・酒は時折購入。	
「衣」について	
衣料: 店から購入。自分でも作る。デールの生地(綿・絹)、外套、靴などを店から購入。	
暮らし全般	
保健衛生費: 月 30-40T. 医療: 病院および薬局を利用。各種生活サービス: (a)美容室・散髪屋、(b)公衆シャワー、(c)クリーニング店、(d)靴修理、(g)写真館を利用。公共バスは常に利用。家計の担当者・高額商品購入の決定者は夫。家の備品: 現在有るモノは、(a)冷蔵庫(c)有線ラジオ(d)テレビ(f)ミシン(n)薬箱。今後の予定として: ゲル囲いの中に、夏用の家屋を建てる。	
余暇の過ごし方	
長期休暇: 家で過ごす・地方へ行く。日曜日・平日の余暇: 家で過ごす。	
文化全般	
情報 新聞: 読まない。	
文化 鑑賞: 時折、映画を見る。	
旅行 仕事で全ての県、ほぼ全てのソムに行った。	
人間関係(交友関係・親戚付き合い)	
祝事 社会的祝事は、(a)新年: 兄弟・親戚(b)正月: 兄弟・親戚(c)女性の日: 兄弟・親戚(f)ナーダム: 兄弟・親戚と祝った。個人的祝事は、子供の髪を切るお祝いを家族で行った。	
友人 親友の数: 2~3人。職場関係で、一緒に運送に行く、互いに助け合う。友人は 10人ぐらい。	
親戚 週に 1回以上会う親戚は 1人か 2人。会って仕事や暮らしの話をする。	
支援 困ったときの支援: 職場の人、知り合い・友人から。金銭的支援: 職場・友人から受ける。	

## アンケート回答 No.4

(T. = トウケル)

本人情報
(a) 51歳・女性 (b)出身地: ザガハン県 (c) 1940年に首都に来た。 (d)現在: U.B. のアパートに居住 (f)職業について 現在の職業: コンサルタント、以前の職業: 中学校の教師。 (g)労働時間: 9時~18時まで (21時までの日もある)。 (h)給料: 月 750T. 賞与なし。 (i)最終学歴: 大学卒
配偶者について
(a)年令: 53歳 (b)職業: 部門の主任 (c)給料: 月 850T. (d)最終学歴: 大学卒
結婚について
(a)なれそめ: 大学生の時に知り合った。1952年、19歳のときに。結婚までの期間: 2年。結婚は妻21歳・夫23歳のとき。 (b)結婚式は行っていない。 (c)結婚時に父母から貰った言葉: 「幸せに暮らせよ」 結婚時の支援: 家で使う物品・お金。最初は両親と同居。 (d)今後の父母との関係 (将来の介護等): 自分たち兄弟で面倒を見る。一番下の弟が同居する。
子供について
(a)子供の数: 6人 (b)家の子供の世話、見守り: 自分たちでみる。家で教えていること: 勉強、家事。 (c)子供に望む教育レベル: 大学 将来についての思い: 良い伴侶を見つけてほしい。どんな人になってほしいか? : 正直・誠実。よい公務に就いてほしい。
家事について
家の分担: 全ての家事を等しく分担するよう努めている。
「住」について
(a)現在の住居は、国のアパート。 (b)住居の形態 (アパート、ゲル)についての意見: 希望はアパート。その理由: 暖かく、清潔、快適。温水・冷水がいつでも使える。現在の住居: 部屋数: 3部屋・41m <sup>2</sup> 。希望は4部屋。アパート代: 300T. 電気代は、月 40-50T. 将来の希望: 家族を二つに分け、子どもを独立させたいと考えている。 (c)隣人関係: 良好。必要なときに助け合っている。 (d)夏期: 夏、別荘に行く。別荘の利点: 健康的な空気の中で自由に過ごすことができる。
「食」について
食事の仕方: 朝日晚の食事について: 朝食・夕食は、家でみんなで。昼食は時には、職場の人々と取る。外食について: 食堂は月に 10-20 回、レストランは、月 1-2 回程度利用。
食料の入手先について。食料品店からの購入・量 (月に): (a)肉 25kg (b)小麦粉 20kg (c)パン 1 日に数個 (d)野菜毎日 1-2kg (e)乳、月に 50 ピュ (f)穀物 15kg (g)バター 20kg (h)砂糖 10kg (i)コンポート 1-2 瓶 (j)菓子類 12-14kg (k)酒 1-2 瓶 (l)タバコ 1 箱 (n)その他必要なものを毎日購入する。
地方からの食料入手について。肉は: 地方に住んでいる父母から年間 35kg を入手。乳: 年間 20 ピュ。乳製品: 夏期にウルムやアーロールを。その他、時にはアイラクを入手する。
「衣」について
衣料: 店舗から購入、自分でも縫製する。店舗からの購入品目: 季節によって、手袋、コート、靴、外衣を買う。
暮らし全般
保健衛生: 歯磨き粉、歯ブラシ、石鹼を 10 日毎ぐらいで購入する。タオルは古くなったら買い換える。16T. 医療: 病院・薬局の利用: 入院が必要なら病院へ。軽い時は家で治療。薬局: 月に 2-3 回。薬代は 5-50T. 生活サービスの利用 (月に): (a)美容室: 2-3 度 (行かない月もある)。 (c)クリーニング店: 1 回 (d)靴修理: 1 回 (h)公共交通: 毎日
家計について: 家計の担当者は夫。高額商品購入の決定は、夫婦で共に。
家の備品: あるものは、(a)冷蔵庫 (c)有線ラジオ (d)テレビ (f)ミシン (n)薬箱。
今後の購入予定品: 子供たちが独立するときに準備すべきもの、家具や衣類。
余暇の過ごし方
長期休暇は: 家で過ごすまたは、地方へ行く。時折、保養地に行く。日曜日: 家で家事をする。平日の余暇: 家事をする。子供たち孫たちの面倒を見る。上の子とは、一緒に縫い物をする。下の子の面倒を見る。

## アンケート回答 No.4 続き

文化全般	
情報	情報の入手 新聞：毎日読む。雑誌：教育学の雑誌 <i>сурган хүмүүжүүлэх ухаан</i> を読む。本の購入：いつもではないが、月1冊程度。ジャンルは、文学または、政治についての書物。
文化	鑑賞（月に何回？）：恒常的ではない（その時次第）。サーラス1回・演奏会1回ぐらい。
旅行	旅行先(a)仕事でトウブ県、ザブハン県へ行った。保養地は、ドルノゴビ県、アルハンガイ県へ。
人間関係（交友関係・親戚付き合い）	
祝事	社会的祝事を誰と祝うか？ (a)新年：父母、兄弟、友人たちと。正月：父母、兄弟と。 (c)女性の日：友人たちと。 (f)ナーダム：父母・兄弟、友人たちと。
	個人的祝事：(b)年令の祝い（50歳 60歳 70歳 80歳 90歳等）；客人を招いて祝う。 (e)新しい家に入居；家族で。 (f)勲章；客人を招いて。
友人	親友の数：(a)幼なじみ：4～5人；ごくたまに会う。 (b)学校時代の友：10人；特別な機会があった時に会う。勲章を貰うとか、病気をした時など。 (c)職場関係：6人；休憩時間を共に過ごす。 (d)近隣関係：4人；近所づきあいで知り合った。普通に友人と言えば何人位？：一緒に働いている年上の人々や一緒に学んでいた人々、すべて友人。
親戚	(a)毎日会う親戚は：家族。 (b)週に1回以上会う人は？：独立して暮らしている4人の子供たち；ごはんを作りごちそうする。暮らしについて尋ね話をする。家事を助ける。 (c)月1回以上あう人：父母と弟；必要なときに会う（お祝いや様子伺いに）。 (d)年1回以上会う人：遠くに住んでいる親戚と時折；お見舞い・様子伺いなど。 (e)2年に1回：1年2年会えなかった人。；お店に行く、映画を見る。 (f)2年間会っていない親戚：遠い親戚。
支援	困ったときの支援・誰から？：父母や兄弟から。 (a)金銭面：父母。 (b)援助の労力：父母。 (c)心理的・悩み事：夫・父母・親友。 (d)その他：大きな災難に遭遇したときは、公的機関が300-500T.の支援を行う。

## アンケート回答 No.5

(T. = トウガルク)

本人情報	
(a) 26歳・女性 (b)出身地：ウランバートル。	
(f)職業について 現在の職業：中学校の教師、以前は大学生。今後について：専門以外の仕事に就こうと考えている。 (g)労働時間：8時から14時まで。18時までの時もあり。 (d)給料：月 550-600T. 賞与：少し。20-30T. (e)最終学歴：大卒。	
配偶者について	
(a)年令：29歳。職業：夫は副ネグデル長。給料：給料月 900T. 最終学歴：大卒。	
結婚について	
(a)なれそめ：1980年に、保養地で知り合った。 (b)結婚：結婚までの交際期間は1年。結婚を共に祝った人々：兄弟 結婚に際しての父母：結婚を快諾、「良き妻になりなさい」と。結婚後、自分の家で一緒に暮らし始めた。	
子供について	
(a)子供の数：3人 保育所・幼稚園に通っている。子供の教育について。望む教育レベル：大学 子供の将来についての思いは？：健康。教養のある良い人間になってほしい。	
家事について	
家事の分担：夫・妻ともに家事をする。	
「住」について	
(a)現在：国のアパートに居住。部屋数・広さ：3部屋・42m <sup>2</sup> 。アパート代：300T. 電気代は月 60T. 水道代：月 20T. (b)住居の形態：アパートがよい。快適だから。今後、都心のアパートへ移りたいと考えている。 (c)隣人関係：普通 相互扶助はほとんど無い。 (d)夏の別荘：夏、別荘に行く。利点は：健康的な空気。開放感があること。	

## アンケート回答 No.5 続き

「食」について	
食事の仕方：朝食・夕食は一緒に。昼食はそれぞれ別々に。	
外食の有無（食堂・レストランの利用）：食堂は1ヶ月10-20回、レストランは月1回程度。	
食料の入手先、店舗から購入：(a)肉 (b)小麦粉 (c)パン (d)野菜 (e)乳 (f)穀物 (g)バター (h)砂糖 時折購入：(i)コンポート (j)菓子類。酒類は月1回程度。地方からの食料入手は無し。	
「衣」について	
衣料は店舗から購入する。購入品目：上に着る服、主に子供服。自分の服は、少し（靴、帽子など）。	
暮らし全般	
保健衛生費：歯磨き粉3T.60ムング、石鹼5T.タオル5T。	
医療：病気の時、家で治療。薬局の利用：月1-2回。薬代は20-50T。	
各種生活サービスの利用について。(a)美容室：月1度、(c)クリーニング店：年1回、(d)靴修理：年1回、(g)写真館：時折、(h)公共バス：常に利用、毎日。	
家計について：家計の担当者は、夫。高額商品購入の決定は、共に。	
家の備品：現在あるものは、(a)冷蔵庫 (c)有線ラジオ (d)テレビ (h)テープレコーダー (n)薬箱。	
今後の購入予定品は？：家具（ダブルベッド、ソファー）。	
余暇の過ごし方	
長期休暇は？：(a)家で過ごす。子供を見る。日曜日：家で過ごす。時折、親戚の家に行く。平日の余暇：家で過ごす。掃除・洗濯をする。裁縫をする。子供の面倒を見る。子供とすること：子供を外に連れていく。本の読み聞かせ。	
文化全般	
情報	情報の入手：雑誌は、教育関係の雑誌を読む。本は、月に1冊、文学書を購入。図書館：利用しない。
文化	鑑賞：一定でない。月に(a)映画1回、(e)サーカス1回。
旅行	旅先：(a)仕事で地方、ソムへ行った。長期休暇期間の旅行は、ボルガン県に行った。
人間関係（交友関係・親戚付き合い）	
祝事	社会的祝事：(a)新年：友人たち (b)正月：兄弟・親戚 (f)ナーダム：兄弟・親戚 (h)その他：友人たちと祝う。 個人的祝事：(a)誕生日は、祝わない (e)新しい家への入居は、家族で祝う。
友人	親友は何人？：2人。共に学んだ。現在は；時折会う。 人数では、幼なじみ：1人。職場：2人。近所：1人。 (e)普通に友人と言えば何人位？：一緒に働いている人々および学校時代の友人で、6人。
親戚	親戚付き合いについて。(a)毎日会う親戚は：家族。(c)月1回以上あう人：姉・兄で、必要なときに合う。 (e)2年に1回は：遠い親戚。
支援	困ったときの支援・誰から：(a)金銭的支援は、姉から。(b)労力の提供は、夫、兄、姉、友人、友人の夫。 (c)悩みを分かち合うのは、姉と。

## アンケート回答 No.6

(T. = トウケルク)

本人情報	
(a) 42歳・男性 (b)出身地:ゴビアルタイ県 (c)首都に来た時期:約10余年前 (d)現在の住居:ゲル地区 (f)職業:会計管理者 <i>нярав</i> 。 (g)労働時間:8時から17時まで。 (h)給料:月 380T. 賞与なし。 (i)最終学歴:中学校卒	
配偶者について	
(a)年令:32歳。 (b)妻は労働者。 (c)給料:月 500~600T. (e)最終学歴:技術専門学校卒	
結婚について	
(a)なれそめ:同じ通りに住んでいたことから。約10余年前。知り合って間もなく結婚した。 (c)結婚に際しての父母:結婚を快諾。贈り物をくれた。結婚し自分のゲルに住み始めた。その時、父母は地方に住んでいた。今はもういない。	
子供について	
(a)子供の数:8人。通園・通学中。 (b)家の子供の見守り:上の子供が下の子を見る。 (c)家で家事を教える。子供たちに家事をさせている。 (d)子供の教育について:それぞれ何か一つ専門を身につけさせたい。 (e)どんな人になってほしいか:正直・誠実、働き者、落ち着いた人に。	
家事について	
家事の分担は? (a)料理:妻、(b)洗濯:妻、(c)食料の買い出し:交代で、(d)掃除:妻と子供たち。	
「住」について	
(a)現在の住居の形態:ゲル (b)住居の形態についての意見:ゲルがいい。その理由:家族の人数が多いから。 (c)ゲルの大きさ:6ハナのゲル。電気代は15-20T。薪代月150T. 石炭代200-250T. (d)隣人関係について:良い。助け合っている。 (d)夏の暮らし:別荘へは行かない。	
「食」について	
食事の仕方:朝食・夕食は共に食べる。	
食料の入手先、店舗からは:(a)肉 (b)小麦粉 (c)パン (d)野菜 (e)乳 (f)穀物 (g)バター (l)タバコを恒常的に入手。時折入手は:(h)砂糖 (i)コンポート (k)酒。	
地方からの食料入手は:肉:1年に牛1頭、羊を2-3頭。乳製品も入手する。	
「衣」について	
衣料は、店舗からの購入、自分でも縫う。店舗からの購入品目は:子供服、自分の長靴。	
暮らし全般	
保健衛生:保健衛生費20-30T.	
医療:病院・薬局を利用。	
各種生活サービスの利用:(a)散髪屋、(b)公衆シャワー、(d)靴修理、(f)服の仕立て、(g)写真館、(h)公共バス。	
家計について 家計の担当者:夫、高額商品購入の決定者:夫	
家の備品 現在あるもの:(a)冷蔵庫 (c)有線ラジオ (d)テレビ (f)ミシン (h)テープレコーダー (k)書棚 (n)薬箱	
余暇の過ごし方	
長期休暇は?:地方へ行く。日曜日:家で過ごす。平日の余暇:家で過ごす。子供たちを従え、家事をする。	
文化全般	
文化	鑑賞(月に何回) (a)映画 1-2回
旅行	旅先(a)仕事で:東ドイツのベルリンに行った。 (c)長期休暇期間に:2-3県に行った。
人間関係(交友関係・親戚付き合い)	
祝事	社会的祝事 新年:兄弟親戚 (b)正月:兄弟・親戚 (c)女性の日:友人たち (f)ナーダム:友人たちと祝う。
	個人的祝事 (a)子供を洗う (b)子供の髪を切る:家族で祝う。
親戚	親戚付き合い 週に1回以上会う人:妻の親戚と会って、仕事や暮らしの話をする。
支援	困ったときの支援は? 金銭的支援:知人や職場から。 悩みを分かち合うのは?:困難な苦しみに遭遇したことがない。

## アンケート回答 No.7

(T. = トウケルク)

本人情報	
(a) 29歳・女性 (b)出身地：ウランバートル (d)現在の住居：ゲル地区。 (f)職業：工場の洋裁師 ((g)労働時間：8時から17時まで (h)給料：月450-550T. 賞与：ノルマを達成すれば100-150T.の賞与有り。 (i)最終学歴：10年制中学校卒	
配偶者について	
(a)年令32歳 (b)職業：自動車基地の利用技術師 (d)給料650T. (e)最終学歴：特別専門中学校卒	
結婚について	
(a)10余年前に知り合った。知り合って3-4ヶ月後結婚。結婚は妻19歳、夫22歳の時。 (b)結婚式で共に祝った人々：兄弟。 (c)結婚に際しての父母の行動 結婚を快諾。貰った言葉：「幸福な暮らしを」 援助・支援：ゲルを建ててくれた。ゲルの家具・晴れ着をくれた。 (d)父母との関係 結婚後、自分のゲルに住んだ。現在、母は自分たちと同じハシャー（囲い=敷地）内の母のゲルに住んでいる。	
子供について	
(a)子供の数：4人 2人は幼稚園、1人は保育所、1人は学校に通っている。希望の子供数：現在で充分。 (b)家の子供の世話、見守り：子どもは母のゲルに行っている。 (c)子供の教育について：家事を教えている。 (d)将来について 教育レベルは？：希望は高等教育へ。子供に望むこと：良い任務に就いて、良い暮らしを。正直・誠実で学問・教養のある人になってほしい。	
家事について	
家の分担は？ (a)料理：妻 (b)洗濯：妻 (c)食料の買い出し：妻 (d)掃除：妻	
「住」について	
(a)現在の住居の形態：ゲル（5つのハナのゲル。） (b)住居の形態についての意見 いずれに住みたいか：アパート。より良いと考えるのは：アパート、その理由：快適、清潔。 (c)アパートへの転居について：待機中。 (d)現在の電気代：月12T. 薪代：年200T. 石炭代：年160T. (e)隣人関係：普通 (f)夏に別荘へは：行かない。	
「食」について	
食事の仕方：朝食・夕食は一緒に食べる。外食の有無：時折、食堂を利用する。	
食料の入手先 店舗から購入：(a)肉 (b)小麦粉 (c)パン (d)野菜 (e)乳 (f)穀物 (g)バター (h)砂糖 (i)コンポート (j)菓子類 (k)酒 (l)タバコ。	
「衣」について	
衣料：店舗から購入。自分でも縫製する。店舗からの購入品目は、スーツ。外套。長靴。	
暮らし全般	
保健衛生：保健衛生費月20-30T. 医療：病院・薬局を利用する。薬局での薬代は平均で月10-15T. 各種生活サービスの利用：(a)美容室・散髪屋、(b)公衆シャワー、(c)クリーニング店、(d)靴修理、(g)写真館、(h)公共交通機関。家計について 家計の担当者：夫、高額商品購入の決定者：夫。家の備品について 現在あるもの：(c)有線ラジオ、(d)テレビ、(f)ミシン、(k)書棚。	
余暇の過ごし方	
長期休暇は？：地方へ行く。日曜日：家で過ごす。店や隣に行く。平日の余暇：家事をする。店に行く。	
文化全般	
情報の入手について。新聞・雑誌：読まない。文学書を読む。	
文化鑑賞について (a)映画：月に1回。旅行について 旅行先 (b)個人的旅行：2県に行った。	
人間関係（交友関係・親戚付き合い）	
祝事	(a)社会的祝事 (b)新年：親と祝う (c)正月：親と (d)女性の日：友人たちと (f)ナーダム：親・兄弟と祝う。
	(e)個人的祝事 (g)子供の髪を切る：家族で祝う。
友人	親友の数：1人、幼なじみ、家を訪問。
親戚	親戚付き合い (a)ほぼ毎日会う：母。
支援	困ったときの支援・誰から：兄弟・職場の人々（金銭的支援も）から。 (c)悩みを分かち合う：母。

## アンケート回答 No.8

(T. = トウケルク)

## 本人情報

(a) 34歳・女性 (b)出身地：トウヴ県 (c)首都に来た時期：2歳の時 (d)現在の住居：ウランバートルのアパートに居住 (e)以前は：ゲル地区 (f)職業について 現在：専門職 **мэргэжилтэн**。将来他の仕事に就こうと考えているか？：技術者 **инженер** (g)労働時間：9時から18時まで（時には21時まで）。(h)給料：月 750T. 賞与無し (i)最終学歴：大卒

## 配偶者について

(a)年齢：37歳 (b)夫の職業：研究者・主任 (c)給料：月 775T. + 賞与 120-150T. (e)最終学歴：大卒

## 結婚について

(a)なれそめ：大学生の時に知り合った（1975年）。知り合ってから結婚までの期間は2年。結婚は何歳のとき：妻27歳、夫30歳。 (b)結婚式：兄弟たちと (c)結婚に際しての父母。結婚について：快諾。言葉：「生涯ともに暮らせよ」 (d)結婚後、自分のゲルで暮らしあじめた。 (e)介護等：両親は既に他界。

## 子供について

(a)子供の数：2人。通学1人。通園1人。子供は何人ほしいか？：3人。 (b)家にいるとき誰が見るか？：兄が下の子を見る。 (c)子供の教育について。家で子供の勉強を教えるか？：教えない。家で教えていることは？：勉強の手助け。家事を手伝わせる。望む教育レベルは？：大学（高等教育）。子供の今後についての思い：穏やかで良い未来であることを。どんな人になってほしいか？：学問を身につけた人。

## 家事について

家事の分担：(a)料理：妻 (b)洗濯：妻 (c)食料の買い出し：妻 (d)掃除：妻

## 「住」について

(a)現在の住居の形態：国のアパート (b)住居の形態についての意見 いずれがより良いか？：アパート。その理由：快適。水も温水も出る。 (c)現在の住居（アパート）について：部屋数2、29m<sup>2</sup>、希望の部屋数：3-4部屋 アパート代：200-250T. 水道代 30T. 電気代 80T. 引っ越しの希望：3-4部屋あるアパートへ移りたい。 (d)隣人関係について 良好。相互扶助：なし。 (e)夏の暮らし：夏、別荘に行く。別荘の利点：子供たちがきれいな空気の中で過ごせること。

## 「食」について

食事の仕方：朝食・夕食はみんなで、昼は別々に食べる。外食の有無：昼食は主に食堂で食べる。レストラン；利用は、月に1-3回ぐらい

食料の入手先、店舗から購入：(a)肉 (b)小麦粉 (c)パン (d)野菜 (e)乳 (f)穀物 (g)バター (h)砂糖。 時折購入は：(i)コンポート (j)菓子類。地方から入手するのは、乳で、時折。

## 「衣」について

衣料の購入について (a)店から購入する。 (c)人に作ってもらうのは、1年に1回ぐらい。

店から、どんな服を買うか：季節に応じてシャツ、靴下、スーツ、靴など。

## 暮らし全般

保健衛生 保健衛生費：月 20T.

医療：病院の利用 病気の時に、どこで、治療を受けるか？ 病院へ行く、軽い時は家で治療。薬局の利用：月 1-2回。月 10T。

各種生活サービスの利用について（利用頻度）：(a)美容室・散髪屋：年1回、(d)靴修理：年1回、(h)公共交通：毎日、(i)タクシー：年1回。

家計について 家計の担当者：妻、高額商品購入の決定者：共に。

家の備品について あるもの：(a)冷蔵庫 (b)洗濯機 (c)有線ラジオ (d)テレビ (e)掃除機 (f)ミシン (h)テープレコーダー (l)タイプライター (m)自動車 (n)薬箱。今後の購入予定品：カメラ、家具。

## 余暇の過ごし方

長期休暇は？：(a)家で過ごす。 (d)外国旅行は、希望しているが叶わない。日曜日：家で過ごす。平日の余暇：家で家事をする。子供との過ごし方：一緒に外へ行く。

## アンケート回答 No.8 続き

文化全般	
情報	情報の入手について 新聞：毎日読む。どんな雑誌を？：繊維関係の雑誌、政治についての書物。書籍の購入は：月に2冊。本のジャンル・種類：文学や政治分野の本。図書館の利用：無し。
文化	鑑賞は月に何回？：(a)映画 (e)サークル (f)演奏会などを月に1-2回鑑賞する。
趣味	サークル：政治関係のサークルに参加。
旅行	旅行先 (a)仕事で：セレンゲ県、モスクワへ。 (b)長期休暇期間に：ボルガン県、トウブ県へ。
人間関係（交友関係・親戚付き合い）	
祝事	社会的祝事、誰と祝う？ (a)新年：友人たちと (b)正月：兄弟・親戚と (f)ナーダム：兄弟・親戚・友人たちと (g)革命記念日：父母と祝う。
	個人的祝事 誰と？ (a)誕生日（子供たち）：家族で人を招いて祝う。
友人	親友の数：(a)幼なじみ：1人、関係は良好。 (b)職場関係：1人、関係は良好。 (d)普通に友人と言えば何人位？：一緒に働いていた、学んでいた人々は皆、普通に友人である。
親戚	親戚付き合い (c)月1回以上あう人：2人の弟たち。必要なときに会う。
支援	困ったときの支援・誰から (a)金銭的支援：夫 (b)労力の提供：夫と弟。 (c)心理的困難・悩みを分かち合う人：夫と弟。

## アンケート回答 No.9

(T. = トウブ タウ)

本人情報	
(a) 38歳・男性 (b)出身地：ザヴハン県 (c)首都に来た時期：1965年首都へ (d)アパートに居住 (f)職業について 現在の職業：建設省の専門職 <i>мэргэжилтэн</i> 。将来他の仕事に就こうと考えているか？：大学教師または、工場の技師 <i>инженер</i> 。 (g)労働時間：9時から18時まで。 (h)給料月 750T. + 褒賞：私は新規開発 <i>зохион бүтээх ажил шинэ зүйл санаачлах</i> の仕事をしており、新規開発に努め、何度も数千T. の褒賞を貰っている。(i)最終学歴：大学卒	
配偶者について	
年令34歳。職業：技術専門学校教師 給料：月 800T. (時間外労働の賃金支給もある) (e)最終学歴：大学卒	
結婚について	
(a)なれそめ 大学で学んでいる時に知り合った。いつ：12年前。何歳のときに：妻22歳夫26歳。知り合ってから結婚までの期間：約2年。 (b)結婚式（共に祝った人々）：兄弟を招いて。 (c)結婚に際しての父母 結婚に対して：快諾。父母の言葉：「健康で、幸せに、子だくさんの家族になれ」 援助・支援は？：家具。最初の同居の有無、誰と？：自分の両親と同居。 (d)父母との関係（将来の介護等） 父母の住所：ゲルに住んでいる。将来介護等は？：自分たちが面倒をみるが、暮らしあるい。	
子供について	
(a)子供の数：2人。一人は幼稚園に、一人は学校に通っている。 (c)子供の教育について 家で子供の勉強をみているか？：母親も自分も教える。家で教えることは何？：学校の勉強・家事。下の子供には、本、絵、歌、詩。家事手伝いは？：させている。 (d)子供の教育について 子供に望む教育レベルは？：大学（高等教育）。子供の将来についての思いは？：自己実現を。どんな人になってほしいか？：学問・教養のある人に。	
家事について	
家の分担 (1)料理：二人で (2)洗濯：二人で (3)食料の買い物：二人で (4)掃除：二人で、子供も。	
「住」について	
(a)現在の住居：国のアパート。部屋数・広さ：3部屋・42m <sup>2</sup> 。希望の部屋数：3部屋。アパート代：230T. 電気代：月 50-70T. (b)住居の形態についての意見 アパートとゲル、いずれがよりよいか？：アパート。その理由：快適。 (c)隣人関係について：親しい。友好的。助け合っている。 (d)夏の暮らし（別荘）について：夏、別荘に行く。別荘の利点は：健康的な空気。	

## アンケート回答 No.9 続き

「食」について	
食事の仕方 朝・昼・晩の食事：みんなで食べる。外食（食堂・レストラン）の利用：食堂を利用する。	
食料の入手先、 店舗から購入するもの（1ヶ月の購入量・金額）。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(a)肉 30-40kg</li> <li>(b)小麦粉 10-15kg</li> <li>(c)パン 1日に 1-2 個</li> <li>(d)野菜 20-30kg</li> <li>(e)乳 1日に 1-2 リッ</li> <li>(f)穀物 10-20kg</li> <li>(g)バター 4-5kg</li> <li>(h)砂糖 4-6kg</li> <li>(i)コンポート 5-8 瓶</li> <li>(k)酒 2-3 瓶</li> </ul>	
地方から入手するもの。肉：1年に羊 3-4 頭。乳：時折。乳製品：時折。	
「衣」について	
衣料 (a)店から購入する (b)自分で作る：あり。(c)人に作ってもらう：あり。 1年に店から、買うもの：コート、スーツ、シャツ、子供服、靴。	
暮らし全般	
保健衛生：保健衛生費：30-35T。 医療：病院および薬局の利用について (a)病院へ行く。国の薬局の利用は？(a)頻度：月に 1-2 回 (b)薬代は？：様々。 各種生活サービスの利用について（1ヶ月に何度）：(a)散髪屋 1-2 回、(c)クリーニング店：時折、(f)服の仕立て：1-2 回、(g)写真館：利用する、(h)公共バス：冬期のみ利用。 家計について 家計の担当者：妻。高額商品購入の決定者：夫。 家の備品 現在あるもの：(a)冷蔵庫 (b)洗濯機 (c)有線ラジオ (d)テレビ (e)掃除機 (f)ミシン (g)カメラ (j)ギター (k)書棚 (m)自動車 (n)薬箱 今後の購入予定：車を買い換える。別荘をリフォームする。ウランバートル郊外で土地を一画区入手する。アパートの近くに車庫を建てる。日本製のテープレコーダー、テレビを購入する。	
余暇の過ごし方	
長期休暇は？：(c)地方へ行く。日曜日の過ごし方：郊外に行って健康的な空気の中で散歩する。夏は、果物採り（果物狩り）に行く。平日の余暇：家で過ごす。友人の家に行く。散歩する。子供とは：いつも一緒にいる。車に子どもを乗せて出かける。	
文化全般	
情報	情報の入手 新聞：毎日読む。雑誌：科学技術の雑誌を読む。本：新しい本が出れば購入。ジャンルは、機械・科学技術。図書館：利用しない。本は自宅で読む。
文化	鑑賞（1ヶ月に何回）：映画を時折見る。
趣味	サークル：創作開発サークルに参加。
旅行	旅行先 (a)仕事で：全ての県・ソ連。(b)長期休暇で：3-4 県へ。
人間関係（交友関係・親戚付き合い）	
祝事	社会的祝事（誰と祝うか？）(a)新年：兄弟・親戚 (b)正月：兄弟・親戚 (c)女性の日：兄弟・親戚、友人たちと (f)ナーダム：兄弟・親戚、友人たちと (g)革命記念日：友人たちと 個人的祝事 (c)子供を洗う：家族で祝う (d)子供の髪を切る：家族で (e)新しい家に入居：家族で祝う。
交友関係	親友の数、どんな関係？ (a)幼なじみ：5-6 人、常に交流。(b)学校：3-4 人、常に交流。(c)仕事・職場：10 人余り、常に交流。(d)近所：2-3 人余り、常に交流。(c)普通に友人と言えば何人位：非常に多い。
支援	困ったときの支援・誰から？金銭的支援も：兄弟、職場の同僚、友人たちから。(c)誰と悩みを分かち合うか？：悩みというものに遭遇したことが無い。

## アンケート回答 No.10

(T. = トウガルク)

本人情報	
(a) 23歳・女性 (b)出身地: ウランバートル (d)現在の住居: アパート (f)職業について 以前の職業: 大学を卒業し、現在は: 学校の教師 (歴史・社会) 将来他の仕事に就こうと考えているか?: 考えていない。 (g)労働時間: 8時から15時まで。 (h)給料: 月 700T. (i)最終学歴: 大学卒 (j) 未婚	
父母との関係	
父母と同居している。将来の介護: 親戚の人々が助けてくれる。姉、兄が世話を支援をする。	
「住」について	
(a)現在の住居: 国のアパート 部屋数・広さ: 3部屋・42m <sup>2</sup> 。アパート代: 月 300T. 電気代: 月 50T. 水代: 月 27T. (b)住居の形態についての意見 ゲル・アパート、いずれがよいと思うか?: ゲル その理由: 費用が安い。 (c)隣人関係: 良好。親しくしている。助け合っている。 (d)夏の暮らし: 夏、別荘に行く。別荘の利点: 空気が良い、騒音が少なく静か、心が穏やかになる、神経が休まる。	
「食」について	
食事の仕方 (a)朝・昼・晩の食事: 一緒に食べる。 (b)外食の有無 食堂; たまに昼食を摂る。 レストラン: 休日や祝日に入る。	
食料の入手先、食料品店から購入・量 (月に); (a)肉 30kg (b)小麦粉 10kg (c)パン 1日 2個 (d)野菜 20kg (e)乳 40% (f)穀物 5kg (g)バター 4kg (h)砂糖 2kg (i)コンポート 6瓶 (j)菓子類 10kg (k)酒 2瓶 地方から入手: 肉、干し肉。 乳 サン。 乳脂。 аарц 酪。 өрөм, төс クリーム。	
「衣」について	
衣料 (a)店から購入する。 (b)たまに、自分で縫う。 どんな服を買うか: 夏期・冬期の衣服。	
暮らし全般	
保健衛生: 保健衛生費: 100T. 医療: 病院および薬局の利用 (a)病院へ行く。 国の薬局は? (a)月 4回ぐらい (b)薬代は: 50T. 各種生活サービスの利用について 利用するサービス: (a)美容室 (c)クリーニング店 (d)靴修理 (e)注文服 (g)写真館 (h)公共バス。 (i)タクシーはたまに利用。 家計について 家計の担当者: 母。 高額商品購入: 母が決定。 家の備品、現在あるもの: (a)冷蔵庫 (b)洗濯機 (c)有線ラジオ (d)テレビ (e)掃除機 (f)ミシン (h)テープレコーダー (i)レコードプレイヤー (j)ギター (k) 書棚 (l)タイプライター (m)自動車 (n)薬箱。 今後の購入予定品: カラーテレビ。	
余暇の過ごし方	
長期休暇は?: 地方へ行く。 外国へ行く。 日曜日: 友人と外出。 映画や劇場へ。 平日の余暇: 仕事関係の本を読む。 テレビを見る。 母を手伝う	
文化全般	
情報	情報の入手 新聞: 毎日読む。 雑誌: トーンショール (政治文学雑誌、風刺画も掲載)。 Цог (文学雑誌) ウオグ социалист хууль ёс (社会主義・法律の雑誌) советский спорт (ソ連のスポーツ誌)、読書 (冊数・種類): 月に 10 冊、ソ連の本・文学・歴史・哲学。 図書館利用の有無と頻度: 中学校の図書館および中央図書館を月 7 回程度利用する。
	文化 鑑賞 (月に何回) (a)映画: 3回 (b)オペラ: 1回 (c)劇: 1回 (d)バレエ・舞踊: 1回 (e)サーカス: 1回 (f)演奏会: 2回
趣味	サークル: バスケットボールのサークルに参加
旅行	旅行先: (a)仕事で ドンドゴビ県、ウブルハンガイ県、ドルノゴビ県、ヘンティー県。 国外はソ連。 (b)個人旅行で: (c)長期休暇の旅行 国内: ヨリーン・アム、テレルジ、ホルゴ、アヴァルガトソン <sup>1)</sup> 。 国外: ソ連、東ドイツ。 長期休暇で: ハルホリン。

1) ヨリーン・アム (Ёлын ам, ウムヌゴビ県ゴルヴアン・サイハン山脈にある渓谷)、テレルジ (首都ウランバートルの北東約50キロメートルに位置する景勝地)、ホルゴ (ホルゴ山はアルハンガイ県にある休火山。 巨大な火口を持つ)、アヴァルガトソン (ヘンティー県のリゾート地。 最初の都とされるフドウアラルに3つの湖がある)

## アンケート回答 No.10 続き

人間関係（交友関係・親戚付き合い）	
祝事	社会的祝事 (a)新年：父母と (b)正月：父母・祖父母と (c)女性の日：友人たちと (d)メーデー：職場の人たちと (f)ナーダム：父母と (g)革命記念日：親戚と
	個人的祝事 (a)誕生日：家で、客人を招待して祝う。 (b)年令の祝い：父の60歳のお祝いをした。
友人	親友は4人；中学校、大学時代に知り合った。親しくしている。 (a)幼なじみは1人；たまに会う。一緒に映画や劇を見る。 (b)学校の友人2人；いつも会っている。一緒にレストランに行く。お互いに助け合う。 (c)職場関係の友人1人：仕事・専門関係のアドバイスを貰う。その経験に学ぶ。 (d)近所の友人1人：普通の付き合い。 普通に友人と言えば何人位？：8人ぐらい。
親戚	親戚付き合いについて (a)毎日会う親戚は：父母の親戚。 (b)週1回以上会う人は？：結婚して独立した兄。
支援	困ったときの支援・誰から：親戚の人々、友人たち、兄、姉。 (a)金銭的支援：兄、姉が助けてくれる。 (b)労力の提供：友人たち。 (c)悩みを分かち合う：母、姉、友人たち。

## アンケート回答 No.11

(T. = トウゲルク)

本人情報	
(a) 33歳・男性 (b)出身地：ウランバートル (d)現在の住居：アパートに居住 ウランバートル市スバータル区 (f)職業について：以前の職業：小児科の医師、軍の医師。現在は研究職。将来他の仕事に就こうと考えているか？：医師を続ける。 (g)労働時間9時から18時まで。 (h)給料：月 750T. (i)最終学歴：大学卒	
配偶者について	
(a) 33歳 (b)妻は医師・婦人科。 (d)給料：月 750T. (i)最終学歴：大学卒。	
結婚について	
(a)なれそめ：大学で学生の時に知り合った。1969年に。知り合ってから結婚までの期間は3年。何歳の時に：妻23歳・夫23歳。 (b)結婚式について：兄弟たちと (c)結婚に際しての父母：喜んで承諾 父母からの言葉：「妻は良い男の飾り、悪い男の枷」。結婚にさいしての援助・支援：物品、励まし。最初の同居の有無：父のところに同居。 (d)父母との関係 父母はU.B.のアパートに居住。父母が高齢になった場合や病気になった場合の介護は？：長男が面倒をみる。	
子供について	
(a)子供の数：2人。2人とも通学。息子は5年生、娘は1年生。子供は何人ほしいか？：4人。 (b)子供の世話：子供たちはもう自立している。 (c)子供の教育について：家で教えることは何？文学の読み聞かせ（詩や昔話、冒険譚）6歳になってから、文字と数を教えた。家事手伝いの有無？：子供の成長に見合った家事をさせている。	
家事について	
家事の分担：(1)料理：夫 (2)洗濯：妻 (3)食料の買い物：妻 (4)掃除：一緒に。	
「住」について	
(a)現在の住居：国のアパート。アパート代：100T. 部屋数・広さ：2部屋・45m <sup>2</sup> . (b)住居の形態ゲル・アパート、いずれがより良いと思うか？：どちらも有益。その理由：ゲルに住めば、体が丈夫になる。 (c)隣人関係：良好。助け合っている。 (d)夏の別荘の利点：体が丈夫になる。子供に労働を教えられる。（野菜栽培など）	
「食」について	
食事の仕方：朝食・夕食はみんなで食べる。外食の有無 時折外食する。レストランは2、3ヶ月に1度。	
食料の入手先について。店舗から購入：(a)肉 (b)小麦粉 (c)パン (d)野菜 (e)乳 (f)穀物 (g)バター (h)砂糖 (k)酒 (l)タバコ。地方からの入手：肉は、牛を2頭。羊・山羊を4-6頭。乳、乳製品、その他のものも入手する。	
「衣」について	
衣料：店舗から購入する。また、自分でも作る。	

## アンケート回答 No.11 続き

暮らし全般	
保健衛生：1カ月に購入：歯磨き粉2個、石鹼4個ぐらい。	
医療：病院および薬局の利用：(a)病院へ行く (b)薬局：各季節に1-2回ぐらい。薬代：6-20T。	
各種生活サービス 利用するもの：(a)散髪屋 (c)クリーニング店 (d)靴修理 (e)時計修理 (f)服の仕立て (h)公共交通 (i)タクシー：利用しないときもある。	
家計について：一緒に。高額商品購入の決定者：一緒に。	
家の備品：現在あるもの (a)冷蔵庫 (b)洗濯機 (c)有線ラジオ (d)テレビ (f)ミシン (g)カメラ (h)テープレコーダー (i)レコードプレイヤー (j)ギター (k)書棚 (l)タイプライター (n)薬箱	
余暇の過ごし方	
長期休暇は？：(c)地方へ行く (d)外国へ行く、日曜日：農地で過ごす。平日の余暇：家で主に語学学習。文学を読む、子供との過ごし方：映画、サーカスを見に行く。	
文化全般	
情報	情報の入手 新聞：毎日読む 雑誌：3-4種類の雑誌。本は月3,4冊購入。種類：ソ連や自国の文学書。
文化	鑑賞は月に4-6回ぐらい。内訳：(a)映画：月4回。(b)オペラは年単位で。(d)バレエ・舞踊 (e)サーカス(f)演奏会に行く。
旅行	旅先(a)仕事で：ウムヌゴビ県、ヘンティー県、フブスグル県、トウブ県。(b)個人的な旅：セレンゲ県、ダルハン県。(c)長期休暇で：トウブ県、ソ連。
人間関係（交友関係・親戚付き合い）	
祝事	社会的祝事 (a)新年：父母の家で。(b)正月：父母の家で。(c)女性の日：父母の家で。(d)メーデー：兄弟 (e)こどもの日：家で。(f)ナーダム：家で。(g)革命記念日：友人たちと。
	個人的祝事 (a)家族の誕生日：家族で (e)新しい家：家族で (f)勲章受章：客人を招いて。
友人	(a)親友の人数：多数。(a)幼なじみ：5~6人；友、仲間。(b)学校：5-6人；友、仲間。(c)職場関係：4人；友、同僚 (d)近所：6人；普通の付き合い。(d)その他：多数 普通に友人と言えば何人位？：親しい人たちみんな。
親戚	(a)毎日会う親戚は：父母、弟；暮らしについて話をする。(b)週に1回以上会う人は？：兄弟等4-5人。；仕事などを話す。新しいこと、歌を歌う等。(c)月1回以上あう人：普通にいる。
支援	困ったときの支援：(a)父母、親友、仲間たち。(b)労力の提供：弟たち (c)悩みを分かち合う：妻、友人たち

## アンケート回答 No.12

(T. = トウケル)

本人情報	
(a) 62歳・男性 (b)出身地：ゴビアルタイ県 (c)首都に来た時期：14歳の時 (d)現在の住居：アパートに居住 (e)以前の住居：ゲル地区 (f)職業について：現在の職業：医師、以前の職業：教師 (g)労働時間：8時間 (h)給料：月700。(i)最終学歴：大学卒	
配偶者について	
(a) 52歳 (b)妻は看護師 (d)給料：月480T. (e)最終学歴：特別専門学校卒	
結婚について	
(a)なれそめ：病院で知り合った。若いときに。知り合ってから結婚までの期間：1年。妻19歳・夫26歳の時に結婚。	
子供について	
(a)子供の数：9人 (b)家の子供見守り：子供たち自身で (c)子供の教育について、家で子供の勉強を誰が見るか？：父母 家で教えていることは何？：良い人になることを教えている。家事手伝いの有無？：手伝いをする。子供に望む教育レベルは？：高い教養。子供の将来についての思いは？：幸福 どんな人になってほしいか？：正直・誠実。	

## アンケート回答 No.12 続き

家事について	
家事の分担：(a)料理 (b)洗濯 (c)食料の買い出し (d)掃除 (e)その他 すべて共に。	
「住」について	
(a)現在の住居の形態：アパート。 (c)隣人関係：良好 (d)夏の暮らし：夏、別荘に行く。健康的な空気の下で休養。	
「食」について	
食事の仕方 朝食・夕食；みんなで摂る。外食について。時折外食する。レストラン；1-2回。食堂で昼食をとる。	
「衣」について	
衣料：店から購入する。自分でも作る。	
暮らし全般	
保健衛生：保健衛生費 1ヶ月の保健衛生費：50トゥガル。	
医療：病院および薬局の利用について 病院へ行く	
各種生活サービスの利用について：(a)美容室・散髪屋、(c)クリーニング店(f)服の仕立て(h)公共交通	
家計について 家計の担当者：妻。高額商品購入の決定者：夫および妻。	
家の備品 現在あるもの：(a)冷蔵庫 (c)有線ラジオ (d)テレビ (e)掃除機 (f)ミシン (h)テープレコーダー (i)レコードプレイヤー (k)書棚 (l)タイプライター (n)薬箱。	
余暇の過ごし方	
長期休暇の過ごし方：保養地へいく。地方へいく。	
文化全般	
情報	情報の入手 新聞：毎日読む 専門の雑誌、ソ連、モンゴルの雑誌を読む。図書館：利用しない。
文化	鑑賞：映画、サーカス、演奏会へ行く。
旅行	旅行先 (a)仕事で地方へ。専門の研修で、外国：モスクワ、レニングラードへいった。
人間関係（交友関係・親戚付き合い）	
祝事	社会的の祝事 (a)新年：職場で、(b)正月：兄弟・親戚と、(c)女性の日：職場で、(f)ナーダム：兄弟・親戚と、(g)革命記念日：職場で祝う。

## アンケート回答（聞き取り） No.13

(T. = トゥガル)

本人情報	
(a) 26歳・女性 (b)出身地：ウランバートル (c)現在の住居：サンサロのアパートに居住。	
職業について	
現在の仕事：「今は、ジャーナリストのチェック係をしている。」	
以前の仕事： 「大学を卒業後、地方派遣の”勤務割り当て хувьары”をもらい、エルデネット〔オルホン県〕へ行き、中学校のモンゴル語教師をした。夫と子供はウランバートルにいて、行き来するのが大変だった。2ヶ月間働いて、”家族の困難 ар гэрийн гачигдал”を理由に移動願いを提出したが、夫・子供と離れて住んでいるのは、”家族の困難”ではない、もっと大変な”困難”を抱えている人がたくさんいると笑われた。」	
将来の仕事： 「専門性を高めるために、大学に入り指導的な仕事がしたい。 考えているのは、ドイツ〔東独〕の労働組合大学 үйлдвэрийн эвлэлийн сургуульに留学すること。3年後に入学して5年間学びたい。自分の歳を考えて、そういう計画を持っている。大学については、他に、党大学、マルキスト・レーニンイズム大学、ソ連の社会主义党大学等も考えている。これらのいずれかでもいい。 今の仕事をちゃんとしたら、支援してくれる。2-3年仕事をする。希望を提出して、試験を受ける。 今の仕事については、大学卒業時にもし、勤務割り当てを、ウランバートルにもらっていたら、そのまま先生になっていたんだろう。ジャーナリストにはなりたくない。」	

## アンケート回答(聞き取り) No.13 続き

「首都居住のパスポートはまた戻ってくるつもりで、渡して〔回収されて〕いなかつたので問題にはならなかつた。」

〔2-3年自分から望んで地方で働く人には、首都のパスポートをそのまま保障。地方に"任地 *томилол*"をもらつた人は、首都のパスポートを回収されるという。〕

## 結婚について

「夫は、上の学年だった。2年付き合って、結婚した。私が19歳、夫が24歳のときだ。」

妊娠していて、結婚した。出産休暇は取っていない。4月に出産して少し静養して学校に出た。6月から学校は休みに入った。1年間無駄にしたくなかった。」

「学生銀行から200トゥグ *лв*を得た。"家族の困難 *ар гэрийн гачигдал*"として500トゥグ *лв*の支援があり、乳母車と残りのお金を贈られた。」

## 結婚にさいしての親の援助・支援

「住む場所を支援し〔夫の両親と同居〕、自分の親は家具(ソファー)をくれた。」

夫の両親は、口座にお金を入れてくれた。5000トゥグ *лв*。最近は物をいろいろ贈るよりもお金を贈る。子供預金は0歳~18歳で利子が8%。普通預金の利子は6%である。月々いくら、毎年いくらとか、預け入れることができる。」

## 子供の世話・両親

「出産後、1年間は夫の両親が子供を見てくれた。」

自分の両親は夫を気に入っており、夫の両親と自分とは良い関係だった。夫の両親の元から出て独立した時も、夫の両親と別れて住むのがさびしく感じられた。」

子供は1歳から保育所 *ясли* に行き、家では自分が見ていた。3歳からは幼稚園に通っている。」

## 自分の家族 親の扶養

「自分の父は53歳、食料・軽工業省勤務(хэлтэсの長)。」

母は歌手。兄弟は、妹だけ。結婚し、両親と住んでいる。父母は妹を出したくない。妹の夫は兄弟がたくさんいる。両親が老いると、妹が面倒を見る。」

## 子供について

「現在:幼稚園に通っている。幼稚園の年中クラス(5-6歳児)だ。(年長クラスは7-8歳児)」

ここでは、モンゴル語、算数、お絵かきを教える。」

家では、幼稚園で何を習ったのか尋ねる。詩の暗唱や1~10の足し算、引き算をやっている。」

## 子供の将来について

「何か一つスポーツのできる人間になってほしい。サッカーの選手。」

スポーツクラブに入れるつもりだ。小学校の低学年から取る。」

「ロシア学校に入る。親がロシア人の友達と喋っているとき、子供も会話に加わりたいと思っている。近所にロシア人がたくさん住んでいる。」

教育レベルは? :

「教育レベル、高等教育(大学)とかは、本人自らが決めること。その人間の能力によるし、労働者でも立派な人はいる。ただ、スポーツができ、また、自分の能力を充分に開花させてほしいと望んでいる。」

## アンケート回答(聞き取り) No.14

(T. =トウケル)

本人情報
(a) 25歳・女性 (b)ウランバートル (d) 6-ボーダル。ゲル地区に居住 (e)以前の住居: 220のアパート (f)職業について 現在の職業: 医科大学の検査技師。以前の職業: 医師。 (g)労働時間: 8:00 ~ 14:00。 (h)給料: 月 400T. (i)最終学歴: 10年生中学校卒
配偶者について
(a)年令 25歳 (b)職業 以前の職業は運転手。現在は技術協同建設の企業合同勤務 (c)労働時間: 8:00 ~ 17:00 (d)給料: 月 500T. 余り。600 ~ 700T. (出来高)。賞与: 100-50T. (e)最終学歴: 建設技術専門学校卒
結婚について
(a)なれそめ: どこで、知り合ったのか? : 9学年のときに知り合い、6年後(1981年)に結婚。妻: 22歳 (b)結婚式(どこで、どのように) 近い親戚を招いて家で結婚式をした。父母の兄弟や、その大きくなつた子供たちである。結婚式の費用として 5000 ~ 10000T. が必要。結婚宮殿式をするとき、120 ~ 130T. かかる。その他、結婚披露宴をレストランか家でする。レストランですると 2000 ~ 3000T. 必要で、また自動車代として 1000T. ぐらい必要。 (c)結婚に際しての父母の行動 貰った言葉: 「仲よく」 結婚への援助・支援: ゲルとゲルを建てる土地区画 xamaa. お金 2000T. 最初の住まい: 他の人の家に住んでいて、1年たつて今の所へ移った。 (d)父母との関係(将来の介護等) 父母が高齢・病気になった場合の介護は?: 母親は上の息子のところへは行きたくないと言っている。娘のところへ行きたいと。
子供について
(a)子供の数: 1人、2歳。幼稚園に通っている。子供は何人ほしいか? 自分は2人、夫は4人。 (b)家の子供の世話: 親の家に預けている。自分の兄弟が見てくれている。 (c)子供に望むこと。教育レベルは?: 高等教育(大学)を習得したスポーツ選手。どんな人になってほしいか?: 自分は、正直・誠実、夫は、賢明・勇敢。
家事について
家の分担: (1)料理: 妻。 (2)洗濯: 一緒に。 (3)食料の買い物: 一緒に。 (4)掃除: 一緒に。 (5)その他: 力仕事、例えば薪については夫。夫は働き者だ。自分は、学生の時は父母が家事を全部自分たちでし、子供には何もさせなかつたので、自分は働き者ではない。
「住」について
(a)住居の形態についての意見・希望: 夫は、アパートに入るとお金がたくさんいるし、台所も熱源が電気でかまどがない、ゲルのほうがいいと言う。自分はアパートに入りたい。 (c)隣人関係: 良いが、あまり付き合いはない。となりの中国人はうちに入ってくるが、もう一方の隣人はあまり来ない。 (d)夏、別荘に行くか?: 別荘ではなく、父親が建てた夏用の木造の小屋がある。(冬用の土壁の小屋もあり。) 別荘の利点は: 健康的な空気の中で過ごせること。
「食」について
食事の仕方: 朝食: 一緒に食べる。昼食: 職場の食堂で食べる。3T. だ。ホーショールなど。夕食: 一緒に食べる。外食の有無、頻度は?: 時折外食する レストラン; 時折 食堂; 時折。
食料の入手先、(a)肉 1日 3T. 1ヶ月で 6-7kg. (b)小麦粉 1ヶ月 4kg. (c)パン 1ヶ月 20T. (d)野菜 3ヶ月で、ジャガイモは袋1杯。兄が自分で野菜を植えている。ジャガイモ、カブ、ビーツ、タマネギ、トマトなど。 (e)乳はあまり飲まない。車で乳を売りに来るが、いつも行列ができる。朝から暇な老人たちが並ぶので、売り切れてしまう。 (f)穀物 4kg. (g)バター 2kg あまり。 (h)砂糖 30T. (i)コンポート 4瓶. (k)酒はお祝いの時に、2本。 (l)タバコ 1箱。 (n)その他、ケーキやチョコレート、キュウリなど。 地方から、食料を入手することはない。
「衣」について
衣料: 店から購入する。自分も縫う。シャツ。上着やズボンは夫が縫える。1年に店から買うのは約 200T. どんな服を買うか?: 子供用のシャツや靴下。

## アンケート回答(聞き取り)続き No.14

暮らし全般	
<p>保健衛生：保健衛生費 2-3ヶ月で 20T。      医療：病院および薬局の利用：子供を医者に見せる。年に 6回ぐらい。薬局を利用：年に 7回程度。      各種生活サービスの利用について 月に何度？：(a)美容室・散髪屋：1回 (b)風呂は：義父母の家で。ボクシングの試合がある時には日に 2回サウナに入る。(g)子供の写真を公園の写真館で撮る。(h)公共バスは 1ヶ月 45T。2人分だから 45*2T。(i)タクシー：年に 5回程度。      家計について：家計の担当者は夫。以前は自分がやっていたが、1日 100トゥグリと決めて、自分はパッパと使ってしまう。夫はきっちりしている。高額商品購入の決定者：二人で。自分は買おうといい、夫は買わないという。それで自分の意見が通って買う。      家の備品について (a)冷蔵庫(c)有線ラジオ(d)テレビがある。(e)掃除機は、あるが古くて壊れている。      ある備品：(f)ミシン(h)テープレコーダー(j)ギター(i)レコードプレーヤー(l)タイプライター(m)自動車(n)薬箱      その他家具として：ベッドが 1。食卓と椅子 4-5つ。戸棚がある。      今後の購入予定品、必要なモノ：ガラス扉のついた食器棚。寝室用のドイツ製の家具セット（ベッド 2つとその他で 6000T）。自動車。アパート（10年以内に）。</p>	
余暇の過ごし方	
<p>長期休暇の過ごし方：長期休暇は二人で同時に取る。義父母のところに行って、山に行ったり、野生の果実摘みなど。日曜日：映画やサークスを、子供と一緒に見に行く。平日の余暇：家事をして、家を整えている。</p>	
文化全般	
情報	情報の入手 新聞：職場で年間購読を申し込んでいる。ザローチョーディン・ウネンやスポーツ紙を。どんな雑誌：レコード付きの音楽雑誌。本は 1ヶ月に 1 冊文学書を購入。
文化	鑑賞（1ヶ月に何回）(a)映画：最近は忙しくてほとんど見ないが以前は 1 週間に 2回ぐらい見ていた。オペラはいまいちだけど、劇・バレエは見る。サークスは子供と一緒によく見る
旅行	自分は：10 年生のとき、ロシア語学校の旅行でモスクワ、レニングラードに行った。 夫は：ボクシングの試合で、キューバ、ボーランド、チェコ、ハンガリー、ソ連に行っている。
人間関係（交友関係・親戚付き合い）	
祝事	社会的祝事 (a)新年：父の家で。(b)正月：義父母のところへ（第3ホローロルの）。朝から夜まで過ごす。(c)女性の日：職場の人たちと、レストランに行く。医大では一室で楽しく祝う。(d)メーデー・夫の誕生日と合わせて、レストランでシャンパンを飲んで祝う。(e)子どもの日：公園へ行く。(f)ナーダム：会場にホーショールを作つて持つていく。(g)革命記念日：家で。誕生日と合わせて祝う。
	個人的祝事 (a)誕生日：友人 2-3 人とレストランへ行き、映画を見る。(c)子供の 1 歳のときに、"子供を洗う" お祝いをした。次は 3 歳の時の "子供の髪を切る" お祝いをしようと思っている。これによって、男の子が女の子になる。
友人	親友の数：親友は 2 人。職場の同僚。個人的な付き合い。
親戚	親戚付き合い (a)毎日会う親戚は兄弟。電話で話す。(b)週に 1 回以上会う人は？ 義父母。兄。
支援	困ったときの支援・誰から：(a)父 (a)金銭的支援：父 (b)労力の提供：父や兄弟。 (c)悩みを分かち合う：夫

(よしもと るりこ)